

中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会
道徳ワーキンググループ（第4回）
議事次第

1. 日時：令和8年4月28日（火）13：00～15：00
2. 場所：文部科学省東館5F6会議室
※ウェブ会議と対面による会議を組み合わせた方式
3. 議題：
 - （1）「考え、議論する道徳」の実装に向けた学びの在り方について（2）
 - ・御発表① 渡辺弥生委員
 - ・御発表② 渡邊真魚委員
 - ・事務局説明
 - ・意見交換
 - （2）その他
4. 配付資料：
 - 進行資料 道徳ワーキンググループ（第4回）の流れ（イメージ）
 - 資料 1 「考え、議論する道徳」の実装に向けた学びの在り方について（2）
 - 資料 2-1 渡辺弥生委員 発表資料
 - 資料 2-2 渡邊真魚委員 発表資料
 - 参考資料 教育課程部会道徳ワーキンググループ 委員名簿

1 開会

13:00～13:02	留意事項等
-------------	-------

2 議題 「考え、議論する道徳」の実装に向けた学びの在り方について（2）

13:02～13:10	御発表① 渡辺弥生委員
-------------	-------------

13:10～13:18	御発表② 渡邊真魚委員
-------------	-------------

13:18～13:45	事務局より説明
-------------	---------

13:45～14:55	出席委員からの意見・コメント等 <small>（1人あたり5分以内）</small>
-------------	--

3 閉会


14:55～15:00	次回以降についての連絡等
-------------	--------------

「考え、議論する道徳」の実装に向けた 学びの在り方について(2)



<本日まで議論頂きたい事項>

1. 問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習について
2. デジタル学習基盤の活用について



1. 問題解決的な学習、 道徳的行為に関する体験的な学習について



議論の前提

【現行指導要領上の位置づけ】

- 道徳の教科化に伴い、内容の取扱いにおいて、「問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習等を適切に取り入れるなど、指導方法を工夫する」ことを記載。

学習指導要領（小学校編）

(5) 児童の発達の段階や特性等を考慮し、指導のねらいに即して、問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習等を適切に取り入れるなど、指導方法を工夫すること。その際、それらの活動を通じて学んだ内容の意義などについて考えることができるようにすること。

- また、解説では、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深めるにあたり、効果があると判断した場合に、「問題解決的な学習」や「体験的な学習」など多様な方法を活用して授業を構想するとした上で、
 - ✓ 「問題解決的な学習」については、道徳的諸価値を実現するための問題の解決に向けて話し合うこと
 - ✓ 「道徳的行為に関する体験的な学習」については、具体的な道徳的行為を通して、道徳的諸価値についての考えを深めたり、実現する難しさを考えたりすること等（役割演技など疑似体験的な表現活動を取り入れた学習も例示）

等を示している。

学習指導要領解説（小学校編）

- 道徳科における問題解決的な学習とは、ねらいとする道徳的諸価値について自己を見つめ、これからの生き方に生かしていくことを見通しながら、実現するための問題を見付け、どうしてそのような問題が生まれるのかを調べたり、他者の感じ方や考え方を確かめたりと物事を多面的・多角的に考えながら課題解決に向けて話し合うことである。（中略）例えば、ねらいとする道徳的価値の理解を図る際に、その意義などについて考え、道徳的価値を実現することのよさは理解できるものの、人間としての弱さがあり、実現することが難しいという場合がある。このような課題について児童が自分の体験やそれに伴う感じ方や考え方を基に自分なりの考えをもち、友達との話し合いを通して道徳的価値のよさや難しさを確かめるような問題解決的な学習が考えられる。
- 道徳的諸価値を理解したり、自分との関わりで多面的、多角的に考えたりするためには、例えば、実際に挨拶や丁寧な言葉遣いなど具体的な道徳的行為を通して、礼儀のよさや作法の難しさなどを考えたり、相手に思いやりのある言葉を掛けたり、手助けをして親切についての考えを深めたりするような道徳的行為に関する体験的な学習を取り入れることが考えられる。さらに、読み物教材等を活用した場合には、その教材に登場する人物等の言動を即興的に演技して考える役割演技など疑似体験的な表現活動を取り入れた学習も考えられる。これらの方法を活用する場合は、単に体験的行為や活動そのものを目的として行うのではなく、授業の中に適切に取り入れ、体験的行為や活動を通じて学んだ内容から道徳的価値の意義などについて考えを深めるようにすることが重要である。

【現状と全体的課題】

- 「指導のねらいに即して、問題解決的な学習や道徳的行為に関する体験的な学習等を適切に取り入れた指導を工夫している」という項目に対し、各学年で約80%が肯定的に回答（とてそう思う約20%、そう思う約60% ※学習指導要領実施状況調査[小学校：令和4年度、中学校：令和5年度]）
- 一方、「問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習」が、「考え、議論する道徳」を支える指導方法の工夫として位置付けられた中で、以下のような課題が指摘されている。
 - ✓ 相互の関係やねらい、具体的なイメージ、学びの深まりとの関係性が必ずしも明確ではなく、結果として、手段であるはずの指導方法の工夫自体が目的化している事例が散見される
 - ✓ 限られた授業時間内に体験的な学習を効果的に導入し、かつ学びの深まりまでつなげる指導を行うことが難しい

具体的論点（案）

1. 「①問題解決的な学習」「②道徳的行為に関する体験的な学習」の位置づけや「複数時間」との関係 【補足イメージ1】

- 道徳科の学びをいじめをはじめとする現実の課題への対応につなげていくことは、教科化の契機の1つ。また、小中学校のいじめの認知件数・重大事態の件数はそれぞれ74.6万件・1,129件、暴力行為発生件数が12.3万件と過去最多（※）となる中、「問題解決的な学習」や「道徳的行為に関する体験的な学習」を活かして、道徳科の学びを道徳の実践につなげることが期待される。
- 一方、限られた授業時間内でこうした指導方法を効果的に導入し、かつ学びの深まりまでつなげる指導を行うことは容易ではない、との指摘もある。
（※）令和6年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果
- こうした中、前回WGで議論された一教材を「複数時間」で取り扱う場合に生じる余白を「問題解決的な学習」「道徳的行為に関する体験的な学習」等と適切に組み合わせ、「深める教材」も活用しながら創意工夫することで、個人が人生において直面する様々な状況での判断や実践と関連付け、道徳的な課題を自分自身の問題として捉え、向き合う「考え、議論する道徳」の実装につなげていくことが考えられるのではないか。

（※）こうした取組を、例えば道徳科の学びを学級活動のルール形成に活かすこと等も考えられる（特別活動等との関係については次回以降検討）。

（※）「問題解決的な学習」「道徳的行為に関する体験的な学習」は指導方法の工夫例（多様な選択肢の1つ）を示したものであるが、「深い学び」と関連した要素として前回WGで議論した「自我関与」や「多面化・多角化」は、道徳科におけるより高次の重要性を有することに留意。

（※）従前どおり、単時間での実践も考えられる。

2. 「①問題解決的な学習」「②道徳的行為に関する体験的な学習」の考え方 【補足イメージ2】

- 「①問題解決的な学習」「②道徳的行為に関する体験的な学習」のイメージが湧きにくいとの指摘や、これらの活動を行うこと自体が目的化している事例が散見されるとの指摘がある中、教科化の際の議論や学校現場の取組を踏まえ、参考として趣旨や具体例を示しつつ、これらによらないものも含め、多様な実践を推奨することを明確にしてはどうか。
 - ✓ 共通の背景：登場人物の心情理解や、わかりきったことを子供に言わせたり書かせたりすることに留まるなど、道徳科の学びが実生活における道徳の実践につながらないこと
 - ✓ ①問題解決的な学習：
 - 趣旨：具体的な道徳的問題に対し、解決のために取り得る行動を考える活動を通じて、自己の考えと道徳の実践との関連付けや深い学びを促し、道徳性の諸様相（※）を育てること
（※）道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度
 - 具体例：教材の中の道徳的問題を見出す活動、道徳的問題について考え、議論して自分なりの答え（納得解）を見出す活動 等
 - ✓ ②道徳的行為に関する体験的な学習：
 - 趣旨：道徳的行為に関する実体験や実感を伴う活動を通じて、自己の考えと道徳の実践との関連付けや深い学びを促し、道徳性の諸様相を育てること
 - 具体例：役割演技（登場人物の言動について即興的に演技すること等）、動作化（身体を使った場面の追体験等）、内容項目に関わる活動（礼儀、親切に関わる体験等）、教材と関わる実物に触れたり、当事者に会ったりする活動 等

（※）実践においては、例えば①体験的な学習を交えつつ②問題解決的な学習を行うなど、①②の組合せも含めた多様な実践があり得る。

（※）あくまでも指導方法の工夫例であり、発達の段階に応じることが必要であることはもちろん、手段を導入すること・活動すること自体が目的化することなく、道徳科における「深い学び」を通じて内面的資質としての道徳性を養うことにつなげられるかが重要であることに留意。

具体的論点（案）

3. 「①問題解決的な学習」における「問題」の考え方 【補足イメージ3】

- 「問題解決的な学習」における「問題」について、平成28年の「特別の教科 道徳」の指導方法・評価等について（報告）では以下の4項目を例示してきたところ、項目例同士の関係性が分かりにくく、授業との関連付けが容易ではない、との指摘がある。

H27報告で示された「問題」の例

- ①道徳的諸価値が実現されていないことに起因する問題、②道徳的諸価値について理解が不十分又は誤解していることから生じる問題、③道徳的諸価値のことは理解しているが、それを実現しようとする自分とそうでない自分との葛藤から生じる問題、④複数の道徳的価値の間の対立から生じる問題

- このため、道徳的諸価値についての理解を前提として、「考え、議論する道徳」の実装の視点で例を焦点化しより分かり易く整理する観点から、「(1)自己内葛藤」「(2)価値の対立」の2項目で解説で例示することとしてはどうか。

(1) 自己内葛藤（価値と自己との葛藤）：

- 状況：何がよいか/望ましいかは分かっているが、どう向き合い、行動するかが難しい（実践が難しい）
- 具体例：自分で判断すべきだが周囲に流されてしまう（自律）、本当のことを言うべきだが、ごまかしてしまう（正直、誠実）、役割を果たすべきだが人任せにしてしまう（公共の精神）、思いやりを誰に、どのように形にするかで迷う（親切、思いやり）等

(2) 価値の対立（複数の価値間の葛藤）：

- 状況：一方の立場や考え方をとると他方が損なわれる（判断が難しい）
- 具体例：「相互理解、寛容」と「規則の尊重」、「友情、信頼」と「公正、公平、社会正義」、「親切、思いやり」と「正直、誠実」、「自由と責任」と「遵法精神、公德心」等

（※1）実際の問題場面においては、(1)(2)は相互に関連し、截然と切り分けることが難しい場合もあり得る。

（※2）(1)(2)は道徳的諸価値についての理解を前提としていることも踏まえ、「問題解決的な学習」を指導の工夫として取り入れるにあたっては、発達の段階を含めた児童生徒の実態を踏まえる必要があることに留意。

（※3）(2)価値の対立に関し、3つの道徳的価値が対立することもあり得る。

- また、従前、複数の価値の対立を取り扱う場合にも、どちらか1つの内容項目を主とする取扱いが主として行われてきたが、
 - ✓ 特定の道徳的価値に終結させる取扱いが予定調和的な授業につながり易い側面があるとの指摘があること
 - ✓ 現行指導要領で「内容項目間の関連を密にした指導」を取り入れる等の工夫を行うことを示しているほか、解説で「必ずしも各内容項目を一つずつ主題として設定しなければならないということではない」としていること等を踏まえ、「問題解決的な学習」において「道徳的価値の対立」を取り上げる場合等に、主題と関連して複数の内容項目を設定することが考えられることを解説で明確化してはどうか。
- また、このような場合の「各学年段階の内容項目を、相当する各学年において全て取り上げる」取扱いとの関係については、相当する学年における道徳科の学習の全体の中で、内容項目に関わる過度な偏りが生じないよう、併せて解説で取扱いを示すこととしてはどうか。

具体的論点（案）

4. 道徳科の学びと感情との関係

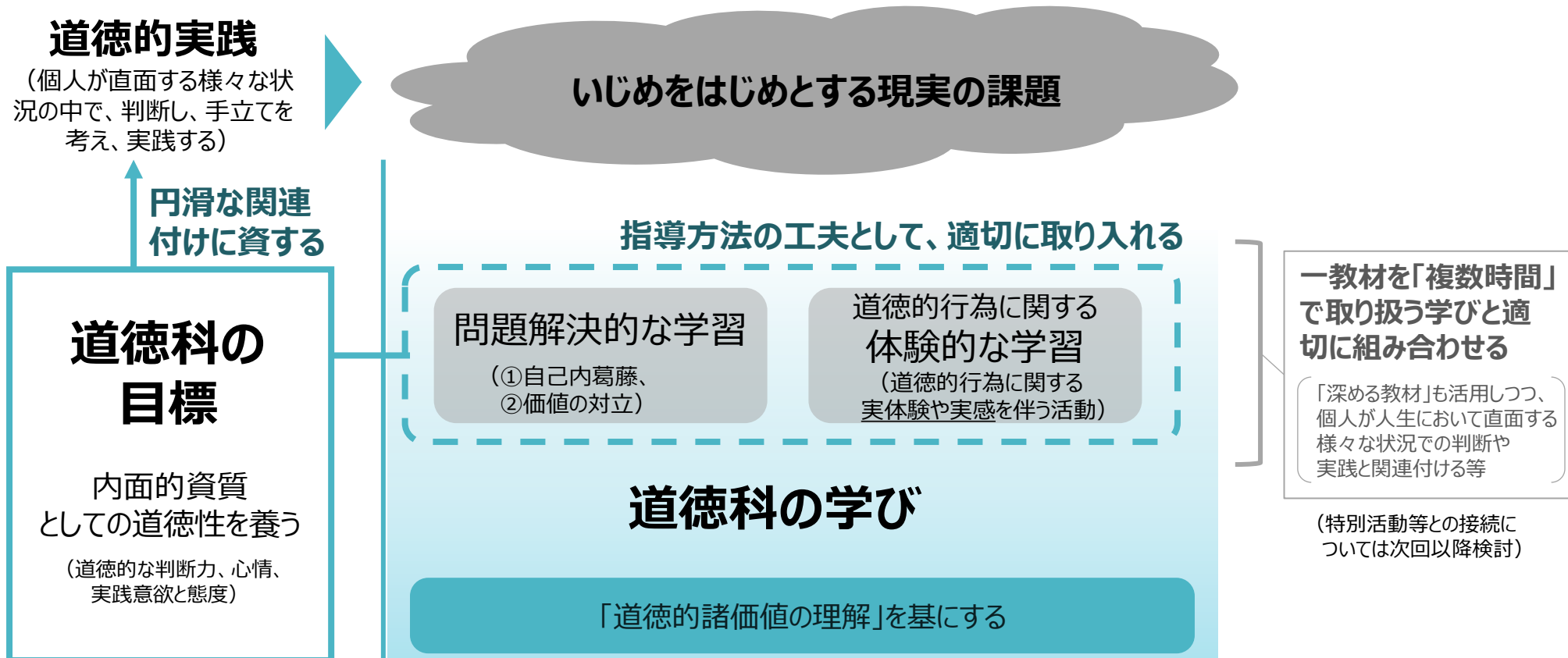
- 道徳科で育む道徳性の諸様相の1つである「道徳的心情」は、人間としてのよりよい生き方や善を志向する「感情」とされている等、人格的特性としての道徳性と感情は密接に関連するものとして整理されている。
- また、感情をうまく表現できない子供は、困りごとを周囲に伝えられず、いじめや暴力行為等につながるリスクが高まる可能性が指摘されており、こうした感情の認識や調整に関わる要素を持つ学びが、道徳的実践への接続や、自我関与の土台を形成すること等を通じて、道徳科の学びに寄与するとの指摘もある。
- 一方、感情の認識や調整それ自体が目的化した場合には、内面的資質としての道徳性を養うという、道徳科の目標の趣旨が没却された授業となる恐れもあり、こうした要素を取り入れる場合には、道徳科の目標に沿った形で行われることが前提となる。
- 以上に加え、こうした要素が現行の教科書でも体験的な文脈で取り扱われていること等を踏まえ、感情の認識や調整に関わる内容については、「道徳的行為に関する体験的な学習」の多様な在り方の一例として、解説で示すとともに、「一教材を複数コマで取り扱う」学びと適切に組み合わせることで、道徳科の目標を踏まえた道徳科の学びと「道徳的実践」との一層の接続を図ることが考えられる旨を併せて示すこととしてはどうか。

（※）あくまでも多様な在り方が想定される「深める教材」の一例であることに留意。

（※）現行の教科書では、「友情、信頼」「思いやり、感謝」といった内容項目との関わりで、「感情をマネジメントしてみよう」といった題材等が「深める教材」の扱いで掲載されている例がある。

「①問題解決的な学習」「②道徳的行為に関する体験的な学習」の位置づけや「複数時間」との関係について（イメージ）

- 道徳科の学びをいじめをはじめとする現実の課題への対応につなげていくことは、教科化の契機の1つ。また、小中学校のいじめの認知件数・重大事態の件数はそれぞれ74.6万件・1,129件、暴力行為発生件数が12.3万件と過去最多となる中、「問題解決的な学習」や「道徳的行為に関する体験的な学習」を活かして、道徳科の学びを道徳的実践につなげることが期待される。
- 一方、限られた授業時間内でこうした指導方法を効果的に導入し、かつ学びの深まりまでつなげる指導を行うことは容易ではない、との指摘もある。
- こうした中、前回WGで議論された一教材を「複数時間」で取り扱う場合に生じる余白を「問題解決的な学習」「道徳的行為に関する体験的な学習」等と適切に組み合わせ、「深める教材」も活用しながら創意工夫することで、個人が人生において直面する様々な状況での判断や実践と関連付け、道徳的な課題を自分自身の問題として捉え、向き合う「考え、議論する道徳」の実装につなげていくことが考えられるのではないかと。



(※) こうした取組を、例えば道徳科の学びを学級活動のルール形成に活かすこと等も考えられる。

(※) 「問題解決的な学習」「道徳的行為に関する体験的な学習」は指導方法の工夫例（多様な選択肢の1つ）を示したものであるが、「深い学び」と関連した要素として前回WGで議論した「自我関与」や「多面化・多角化」は、道徳科におけるより高次の重要性を有することに留意。

(※) 従前どおり、単時間での実践も考えられる。

「①問題解決的な学習」「②道徳的行為に関する体験的な学習」 の考え方について

- 「①問題解決的な学習」「②道徳的行為に関する体験的な学習」のイメージが湧きにくいとの指摘や、これらの活動を行うこと自体が目的化している事例が散見されるとの指摘がある中、教科化の際の議論や学校現場の取組を踏まえ、参考として趣旨や具体例を示しつつ、これらによらないものも含め、多様な実践を推奨することを明確にしてはどうか。

(※) 実践においては、例えば①体験的な学習を交えつつ②問題解決的な学習を行うなど、①②の組合せも含めた多様な実践があり得る。

(※) あくまでも指導方法の工夫例であり、発達の段階に応じることが必要であることはもちろん、手段を導入すること・活動すること自体が目的化することなく、道徳科における「深い学び」を通じて内面的資質としての道徳性を養うことにつなげられるかが重要であることに留意。

質を高める 指導方法の 工夫例 <small>(※1)</small>	問題解決的な学習	道徳的行為に関する体験的な学習
共通の 背景	登場人物の心情理解や、わかりきったことを子供に言わせたり書かせたりすることに留まるなど、 <u>道徳科の学びが実生活における道徳的实践につながる</u> こと	
趣旨	<u>具体的な道徳的問題に対し、解決のために取り得る行動を考える活動</u> を通じて、自己の考えと道徳的实践との関連付けや深い学びを促し、道徳性の諸様相 (※2) を育てること	<u>道徳的行為に関する実体験や実感を伴う活動</u> を通じて、自己の考えと道徳的实践との関連付けや深い学びを促し、道徳性の諸様相を育てること
関係する 要素	<ul style="list-style-type: none"> 問題：道徳的諸価値に照らして<u>問題がある状況</u> (自己内葛藤や価値の対立等) 解決：問題状況に対する<u>自分なりの答え</u> (納得解) <u>を見出すこと</u> 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳的行為：道徳的諸価値の<u>実現に関わる行為</u> 体験：<u>実体験や実感を伴う活動</u>
具体例	<ul style="list-style-type: none"> 教材の中の道徳的問題を見出す活動 道徳的問題について考え、議論して自分なりの答えを見出す活動 	<ul style="list-style-type: none"> 役割演技 (登場人物の言動について即興的に演技すること等) 動作化 (身体を使った場面の追体験等) 内容項目に関わる活動 (礼儀、親切に関わる体験等) 教材と関わる実物に触れたり、当事者に会ったりする活動

(※1) H28.7「特別の教科 道徳」の指導方法・評価等について(報告)では、道徳科における質の高い多様な指導方法について、「自我関与が中心の (※2) 道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度学習」が示されているが、「自我関与」は道徳科の「深い学び」と密接に結びつく要素として、①②とは別のものとして整理している。

「①問題解決的な学習」における「問題」の考え方について

- **「問題解決的な学習」における「問題」について**、平成28年の「特別の教科 道徳」の指導方法・評価等について（報告）では以下の4項目を例示してきたところ、**項目例同士の関係性が分かりにくく、授業との関連付けが容易ではない**、との指摘がある。
- このため、道徳的諸価値についての理解を前提として、「考え、議論する道徳」の実装の視点で例を焦点化しより分かり易く整理する観点から、**「(1)自己内葛藤」「(2)価値の対立」の2項目で解説で例示**することとしてはどうか。

H28.7 報告

「特別の教科 道徳」の指導方法・評価等について（報告）

道徳的な問題には、例えば、

- ① **道徳的諸価値が実現されていないこと**に起因する問題
- ② 道徳的諸価値について**理解が不十分又は誤解**していることから生じる問題
- ③ 道徳的諸価値のことは理解しているが、それを**実現しようとする自分とそうできない自分との葛藤**から生じる問題
- ④ 複数の**道徳的価値の間の対立**から生じる問題

などがあり、これらの問題構造を踏まえた場面設定がなされることが求められる。

【課題】

①が幅広いものを指しているなど、①～④の関係性が分かりにくく、授業との関連付けが容易ではない

「考え、議論する道徳」
の実装の視点で例を焦点化

改善案

（問題解決的な学習における「問題」の例）（※1,2）

	(1) 自己内葛藤 (価値と自己との葛藤)	(2) 価値の対立 (複数の価値間の葛藤)
状況	何がよいか/望ましいかは分かっているが、どう向き合い、行動するかが難しい （実践が難しい）	一方の立場や考え方をとると他方が損なわれる （判断が難しい）
具体例	自分で判断すべきだが周囲に流されてしまう（自律）、 本当のことを言うべきだが、ごまかしてしまう（正直、誠実）、 役割を果たすべきだが人任せにになってしまう（公共の精神）、 思いやりを誰に、どのように形にするかで迷う（親切、思いやり）等	「相互理解、寛容」と「規則の尊重」、 「友情、信頼」と 「公正、公平、社会正義」、 「親切、思いやり」と「正直、誠実」、 「自由と責任」と「遵法精神、公徳心」等（※3）

（※1）実際の問題場面においては、(1)(2)は相互に関連し、截然と切り分けることが難しい場合もあり得る。

（※2）(1)(2)は道徳的諸価値についての一定の理解を前提としていることも踏まえ、「問題解決的な学習」を指導の工夫として取り入れるにあたっては、発達の段階を含めた児童生徒の実態を踏まえる必要があることに留意。

（※3）(2)価値の対立に関し、3つの道徳的価値が対立することもあり得る。

參考資料

学習指導要領解説 抜粋

中学校道徳 解説（抜粋）

(P3)

第一章 ○2 改訂の基本方針

教育基本法をはじめとする我が国の教育の根本理念に鑑みれば、道徳教育は、教育の中核をなすものであり、学校における道徳教育は、学校のあらゆる教育活動を通じて行われるべきものである。

同時に、道徳教育においては、これまで受け継がれ、共有されてきたルールやマナー、社会において大切にされてきた様々な道徳的価値などについて、生徒が発達の段階に即し、一定の教育計画に基づいて学び、それらを理解し身に付けたり、様々な角度から考察し自分なりに考えを深めたりする学習の過程が重要である。このため、昭和33年に、小・中学校において、道徳の時間が設けられ、各教科等における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によってこれを補充、深化、統合し、生徒に道徳的価値の自覚や生き方についての考えを深めさせ、道徳的実践力を育成するものとされてきた。こうした道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通じて行うという道徳教育の基本的な考え方は、今後も引き継ぐべきである。一方で、道徳教育が期待される役割を十分に果たすことができるように改善を図ることが重要である。

とりわけ、道徳の時間が道徳教育の要として有効に機能することが不可欠である。今回の道徳教育の改善に関する議論の発端となったのは、いじめの問題への対応であり、生徒がこうした現実の困難な問題に主体的に対処することのできる実効性ある力を育成していく上で、道徳教育も大きな役割を果たすことが強く求められた。道徳教育を通じて、個人が直面する様々な状況の中で、そこにある事象を深く見つめ、自分はどうすべきか、自分に何ができるかを判断し、そのことを実行する手立てを考え、実践できるようにしていくなどの改善が必要と考えられる。

このような状況を踏まえ、道徳教育の充実を図るため、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育とその要としての道徳の時間の役割を明確にした上で、生徒の道徳性を養うために、適切な教材を用いて確実に指導を行い、指導の結果を明らかにしてその質的な向上を図ることができるよう、学校教育法施行規則及び学習指導要領の一部を改正し、道徳の時間を教育課程上「**特別の教科 道徳**」（以下「道徳科」という。）として新たに位置付け、その目標、内容、教材や評価、指導体制の在り方等を見直した。

(P21)

第三章 ○2 内容の取扱い方

第2に示す内容項目は、関連的、発展的に捉え、年間指導計画の作成や指導に際して重点的な扱いを工夫することで、その効果を高めることができる。

(1) 関連的、発展的な取扱いの工夫

ア 関連性をもたせる

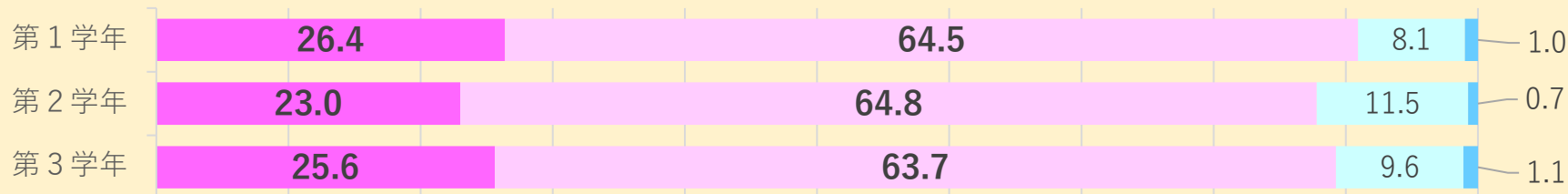
指導内容を構成する際のよりどころは、基本的には22の項目であるが、必ずしも各内容項目を一つずつ主題として設定しなければならないということではない。内容項目を熟知した上で、各学校の実態、特に生徒の実態に即して、生徒の人的な成長をどのように図り、どのように道徳性を養うかという観点から、幾つかの内容を関連付けて指導することが考えられる。その際、内容の関連性を踏まえた配慮と工夫が求められる。少なくとも、適切なねらいを設定して主題を構成し、焦点が不明確な指導にならないようにする必要がある。道徳科の指導に当たっては、内容項目間の関連を十分に考慮したり、指導の順序を工夫したりして、生徒の実態に応じた適切な指導を行うことが大切である。そして、全ての内容項目が調和的に関わり合いながら、生徒の道徳性が養われるように工夫する必要がある。

【学習指導要領実施状況調査から明らかとなった成果】

- 教師質問調査では、「生徒一人一人について、学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすように努めている」という質問項目に対し、どの学年においても87%以上が肯定的な回答をしている。
- 「指導のねらいに即して、問題解決的な学習や道徳的行為に関する体験的な学習、特別活動等の多様な実践活動等を生かすなどを適切に取り入れた指導を工夫している」という質問項目に対し、どの学年においても約80%が肯定的な回答をしている。

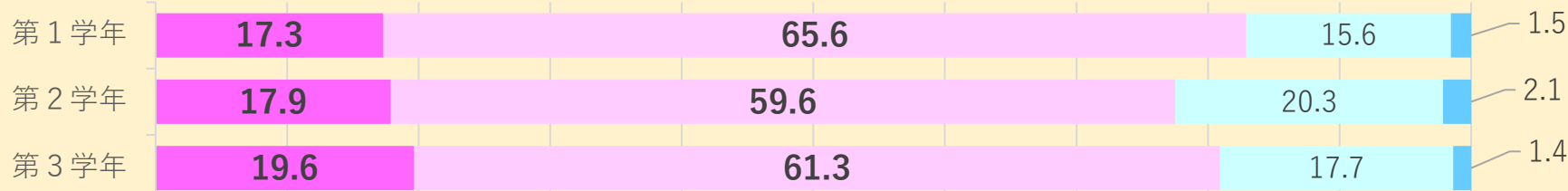
「評価」に関わる質問

「生徒一人一人について、学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすように努めている」 【%】



「学習」及び「指導方法」に関わる質問

「指導のねらいに即して、問題解決的な学習や道徳的行為に関する体験的な学習、特別活動等の多様な実践活動等を生かすなどを適切に取り入れた指導を工夫している」 【%】



■ そうしている ■ どちらかといえばそうしている ■ どちらかといえばそうしていない ■ そうしていない

感情の認識や調整に関わる教材例（現行教科書の事例）

【小学校】

「やくになってかんがえよう」

【内容項目】親切、思いやり

教材
内容

- ・きみえさんがボールで遊んでいたら、年下の子と取り合いになり、その子がころんで泣いてしまった。
- ・あなたが きみえさんだったらどうしますか。
 - その子がわるいんだよ、という
 - いっしょにつかおうか、という
 - ないちゃったからしかたない、かしてあげる

発問

- 3人のかんがえから、これだなと思うものをえらびましょう。
- 3つのげきをして、ちがいをくらべましょう
- もっとよいやりかたはないかな。みんなでげきにしてみましょう。

「なんと言ってつたえる？」問題をかいけつしよう

【内容項目】相互理解、寛容

教材
内容

- ・なかよし四人グループで公園に集まり、何をして遊ぶか相談した。
- ・リーダーのような存在の子がジャングルジムで遊ぶ提案をしたが、高いところが苦手な私は気持ちを言い出せなかった。
- ・これからも楽しく遊ぶために、ちゃんと言おうと思った。

発問

問題をみつける

- みかさんが、自分の意見をなかなか言い出せないのはどうしてでしょう。

解決方法を考える

- 自分の考えとちがう意見が出たとき、あなたはどうしますか。
- どのように話せば、みんなにいやな思いをさせずに、気持ちを伝えることができるでしょう。

考えたことを生かす

- このお話で学んだことを、これからの生活のどんな場面で生かそうと思いますか。

【中学校】

自分の気持ちを相手に伝えるには

【内容項目】思いやり、感謝

教材
内容

- （・「席をゆずってみたら」を読んで、思いやりについて考える）
- ・読み物教材を踏まえ、自分の気持ちを伝えたり、相手の気持ちを理解したりすることについて考えていきましょう。

発問

- 気持ちを理解する難しさを知ろう
- 気持ちを想像してみよう
- ペアになってやってみよう
- アドバイスをしあおう
- 他の場面でも活用しよう

場面：Aさんが、待ち合わせの時間に遅れ、Bさんを待たせてしまった
 場面：CさんとDさんが楽しく遊んでいる最中に、Dさんが急に帰ると言い出した

感情をマネジメントしてみよう

【内容項目】思いやり、感謝

教材
内容

- （・「気づかなかったこと」を読んで、人と関わりながら生きていくことについて考える）
- ・読み物教材を踏まえ、どうすれば自分の感情や気持ちをマネジメントできるかについて考えていきましょう。

発問

- 感情の一つ、「怒り」とは？
- 受け止める側の気持ちを想像してみよう
マネジメントの方法を考えよう
- 気付いたことを交流しよう
- 他の場面でも活用しよう

場面：掃除当番に来なかったAさんに対して
 →いろいろな気持ちをぶつけるような声かけをしてみる
 →心配している気持ちをこめて声かけをしてみる

(※) あくまでも教科書に実際に掲載されている例を記載しており、例えば記載の「発問」を国として推奨している訳ではないことに留意。

(※) この他、「友情、信頼」等の内容項目について、関連する教材例が見られる。

問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習の実践事例①

中学校2年生

※道徳教育アーカイブ掲載事例より

問題解決的な学習
①自己内葛藤

1コマ

【主題名】誇りある生き方 【内容項目】よりよく生きる喜び

【教材名】足袋の季節（中江良夫作）

【ねらい】人間としての弱さや醜さ、強さと気高さに気付き、罪の意識と後悔の念を長年抱えていた登場人物の生き方への共感を通して、よりよく生きたいと願う心情を育てる。

教材中の問題場面を見出し、**登場人物と自分の気持ちを往復しながら具体的な解について話し合い**、「**誇りある生き方**」とは何かを考えるとともに、**自己の生き方に引き付けてさらに考えを深める**。

導入

- 教材の読み取り
- 登場人物の「人としてよくなかったところ」と「人としてよかったところ」はどこか、理由とともに考え、グループで話し合う

→問題意識を持つ

話し合いを通じて、様々な場面での多様な感じ方に触れながら発問についてそれぞれ考えることで、人間のもつ強さと弱さにせまる。

展開

【発問】

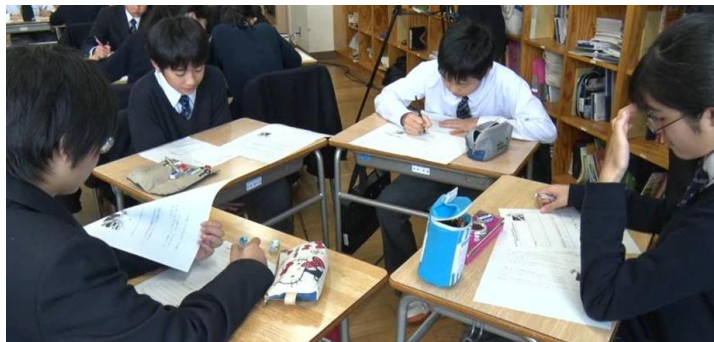
おばあさんのところに謝罪に向かったが、すでにおばあさんが亡くなったことを知った私が「泣けて泣けて仕方がなかった」のはなぜだろう。

登場人物と自分の気持ちとを何度も行来しながら、自分だったらどうするか、クラス全体で考えを出し合うことで、より深く多面的・多角的に考える。

終末

- 人間には弱い面、強い面両面あるが、「誇りある生き方」や「自分に恥じない生き方」とはどのような生き方かと思うか、自分の考えをまとめて記入する。

今日の授業を通して自分の生き方と関わり、何を感じたか、まとめる。



問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習の実践事例③

小学校3年生

※【協力】東京都台東区立根岸小学校

問題解決的な学習
①自己内葛藤

1コマ

【主題名】友達を大切にすること 【内容項目】友情、信頼

【教材名】同じ仲間だから（「わたしたちの道徳」文部科学省）

【ねらい】相手の気持ちや立場を推し量り、友達のことを理解し信頼することで、友達を大切にしようとする心情を育てる。

事前アンケートを通して、友情に関し、**自身の意識と行動の間に乖離があることを認識し、自分事としての問題意識を持つ**。その上で、教材の登場人物の生き方から、「友達と仲良くすること」は大切だと分かっているも、友達を理解、信頼し仲良くすることの難しさを考え、**議論することによって自己の生き方についての考えを深める**。

導入

- 事前アンケートの結果を示し、「友達を大切にすること」について**意識と行動に矛盾点があることを確認**する。

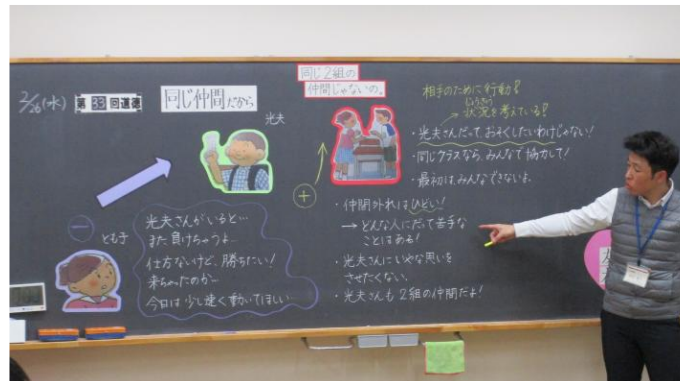
→問題意識を持つ
本時の学習を通じ、「友達を大切にすることはどういうことか」について、考えていくことを確認する。

展開

- 「同じ仲間だから」を読み話し合う。
【発問】とも子は、光夫に対してどのような思いをもっていたらう。（自己内葛藤）
- 登場人物の生き方から、友達を理解、信頼し仲良くすることの難しさについて考える。
【発問】とも子は、どんな思いで「同じ2組の仲間じゃないの。」と厳しくはっきりと言ったのか。

終末

- 友達を大切にすることは、ということについて再度考え、学習を振り返る。
 - 自分の学級の日頃の様子の中から、友達を大切にしている場面の動画を視聴する。
- 友達を大切にすることのよさを多面的・多角的に捉える。



問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習の実践事例④

中学校2年生

※道徳教育アーカイブ掲載事例より

問題解決的な学習
(①自己内葛藤)

1コマ

【主題名】いじめの卑劣さの自覚 【内容項目】公正、公平、社会正義

【教材名】卒業文集最後の二行（私たちの道徳）

【ねらい】いじめる側の自己中心的な論理と、いじめられる側の苦しみについて考えることを通して、差別や偏見を憎み、不正な言動を断固として許さない態度を育てる。

教材に加え、いじめに関する新聞報道を読むことを通して、様々な角度からいじめ問題をとらえ、身近に起こりうる課題として認識し、いじめが不公正なものに分かっていても自分を守るためにいじめに加担してしまう人間の弱さを見つめ、自己の生き方についての考えを深める。

導入

- 教材の読み取りや、いじめに関する様々な立場（元被害者、元加害者、保護者など）からの新聞記事の内容に触れる。
- いじめの被害者が置かれている状況を整理する。

→問題意識を持つ

いじめは悪いとわかっているのに、なぜなくなるないのだろう。（自己内葛藤）

展開

【発問】

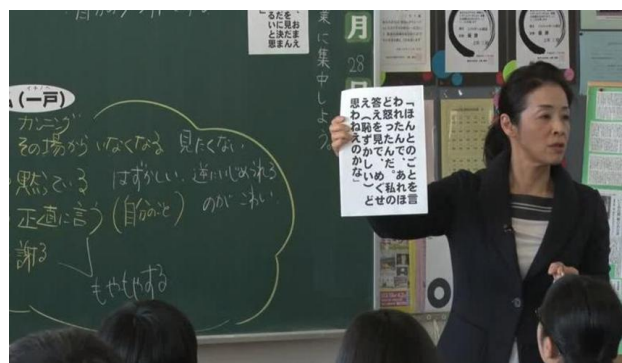
- もしT子さんがいじめられていたらあなたならどうするだろう。
- 主人公は、なぜ一緒になってT子さんを責めたのだろう。

クラス全体で考えや意見を出し合い、主人公の行動の正しさや気持ちの揺らぎについてより深く考える。

終末

- 卒業文集の最後の二行にあった「本当の友達」の「本当の」とはどういう意味か、自分の考えをまとめて記入する。
- 最後の二行が主人公に与えた大いなる「悔い」とはどのようなものか考える。

差別や偏見について自分が感じたことや考えたこと、自分はどのように在りたいかをまとめる。



問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習の実践事例⑤

小学校2年生

※道徳教育アーカイブ掲載事例より

体験的な学習
(役割演技)

1コマ

【主題名】誰にでも同じように 【内容項目】公正、公平、社会正義

【教材名】およげなりすさん（わたしたちの道徳）

【ねらい】相手の気持ちを考え、誰にでも同じように接しようとする態度を育てる。

仲間はずれや不公平をしないことについて、児童が自分との関わりで考えることができるようにするため、役割演技を取り入れ、ねらいとする道徳的価値に関わる諸問題について、多面的・多角的に考えを深める。

導入

- 公正、公平、社会正義に関して、事前アンケートの結果を確認する。

【アンケートの内容】

- 仲間はずれを見たことがあるか。
- 不公平だなと思ったことがあるか。

→問題意識を持つ

児童が本時に扱う内容を、より自分事として捉えられるようにする。

展開

- 「およげなりすさん」を読み話し合う。

【発問】

島に行っても楽しくないとき、どんなことを考えていたのだろうか。

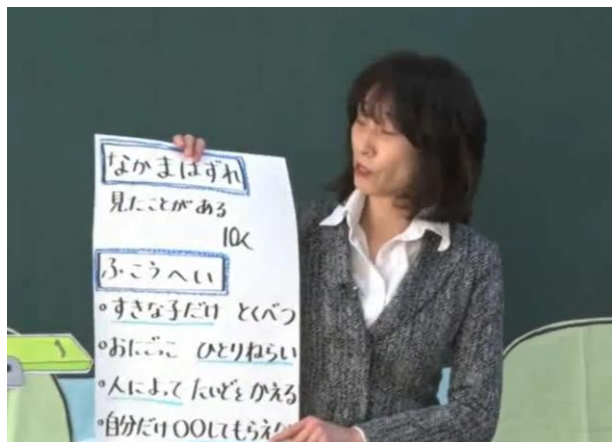
- 役割演技を通して考える。

役割演技をしている児童だけの活動とならないよう、見ている児童にも考える視点を提示。
道徳的な問題を全員で多面的・多角的に考えを深める。

終末

- 教師の説話を聞く。
- 誰にでも同じように接することのよさについて自分なりに感じたこと、考えたことをまとめる。

導入での事前アンケート結果と本時の学習を基に再度道徳的な問題について自分との関わりで考えを深める。



問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習の実践事例⑥

中学校2年生

※道徳教育アーカイブ掲載事例より

体験的な学習
(パネルディスカッション)

1コマ

【主題名】社会への貢献 【内容項目】相互理解、寛容

【教材名】言葉の向こうに (私たちの道徳)

【ねらい】自分のもつ考え以外にも様々な考えがあることに気付き、人と関わり合うため、互いの立場や意見、考えを尊重し、他者の意見も認めて素直に受け入れる謙虚さをもって、他に学んでいこうとする道徳的心情を育てる。

場面を再現したのち、パネルディスカッション形式で「受け入れられる立場」と「受け入れられない立場」に分かれ、それぞれの立場で感じたことや考えたことを話し合うことで自我関与を促し、自己の生き方についての考えを深める。

導入

- 自分が登場人物なら、アドバイスを受け入れられるかどうか心情メーターを用いながら交流する。

→問題意識を持つ

各自の微妙な心情の状態を可視化し、そう示した理由や割り切れない気持ちなどを共有し、問題意識をもつ。

展開

- 教材の読み取り
- ネット上での中傷や反論の具体的なやりとりを掲示物で再現【発問】
 - ・なぜ登場人物はひどい言葉で応酬したのだろう。
 - ・なぜ登場人物はアドバイスを受け入れることができたのだろう。

怒りと不安の間を揺れ動く気持ちを想像し追体験しながら、パネルディスカッションで「受け入れられる立場」と「受け入れられない立場」に立って考えを深める。

終末

- 改めてグループで感じたことや考えたことを交流する。

異なる意見や考えを傾聴することは、自分にとってどのような価値があるのか、交流を基に自分の考えをまとめる。



問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習の実践事例⑦

中学校2年生

※道徳教育アーカイブ掲載事例より

体験的な学習
(動作化、動画)

1コマ

【主題名】よりよい社会の実現 【内容項目】社会参画、公共の精神

【教材名】すべての人に読書の楽しさを（埼玉県道徳教育教材集）

【ねらい】困難にくじけそうになりながらも、すべての人が生きやすい社会を実現しようと前向きに行動する登場人物の姿について話し合い考えを深めることで、よりよい社会の実現を目指して生きようとする心情を育む。

登場人物が、自分たちに直接語りかけてくれたインタビュー映像を視聴することで、登場人物と自分たちとが直接つながっていることを実感しながら、社会に参画することの具体的な意義について考えを深める。

導入

- 教材を読んで考える。
- 実際に目を閉じて、視覚のない状態で動いてみることを体験し、主人公が視力を失った時の気持ちや思いを想像してみる。

→問題意識を持つ

体験を通して感じたことや考えたことをクラス全体で共有し、主人公の抱えていた不安や悔しい思いを考える。

展開

【発問】

- 視力を失っても図書館で働こうとしたのはなぜだろう。
- 主人公の強い思いを支えているものは何だろう。

教材に描かれた主人公の行動や実践の意味を、私たちが生きている社会との関わりで多面的・多角的に考える。

終末

- 主人公に対して教師が直接インタビューした動画を視聴し、教材の中の人自分たちに直接語りかけている映像を観ることで、人柄等も含め主人公の気持ちや思いを追体験する。

主人公が実現を目指す社会や、主人公の生き方から学んだことについて、自分自身の生き方に照らして考えを深める。



問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習の実践事例⑧

中学校2年生

※【協力】群馬大学共同教育学部附属中学校

問題解決的な学習
(①自己内葛藤)

複数コマ

【主題名】生命を輝かせて

【内容項目】生命の尊さ

【教材名】燃え盛る炎（「中学生の道徳2」廣済堂あかつき）

【ねらい】生命の有限性や連続性を手掛かりにその尊さについて自覚することで、自他の生命を尊重しようとする道徳的心情を育てる。

1コマ目では、ニュースや教材を基に生命の尊さに関わる諸事象に対して自分との関わりで問題意識を持つことができるようにする。その上で、2コマ目では、難病と向き合う登場人物の生き方を通して、人間の弱さや気高さについて考えを深める。

1 時間目 【内容項目】生命の尊さ

2 時間目 【内容項目】生命の尊さ

導入

展開

終末

課題の確認、
教材の読み取り

- オーバードーズに関するニュースを視聴する。

- 【発問】なぜこのような行為に至るか考えよう。
- 自分の考えを整理
 - グループ内での話し合い
 - 全体で交流

→問題意識を持つ
生命の尊さに関わるニュースや教材の登場人物の生き方を通して、自分との関わりで問題意識を持つことができるようにする。

導入

展開

終末

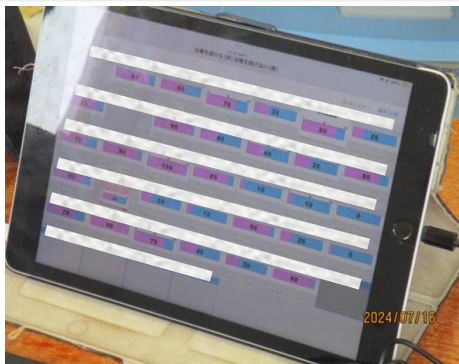
前時のまとめと
自分なりの問題意識の確認

【発問】教材の登場人物の立場に立って、「治療を続けるか否か」について考えよう。（自己内葛藤）

自分の力ではどうにもならない状況や困難が立ちはだかる中で弱気になってしまうこと、その中でも強く生きようとする気高さについて考える。

- 身近な社会的課題や登場人物の生き方を通して自他の生命を尊重するとは、ということについて感じたこと、考えたことをまとめる。

自分なりの問題意識を振り返り新たな課題や目標をもつ。



問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習の実践事例⑨

中学校3年生

※【協力】鹿児島県大崎町立大崎中学校

問題解決的な学習
(②価値の対立)

複数コマ

【主題名】法やきまりの意義 【内容項目】「遵法精神、公德心」×「思いやり、感謝」
 【教材名】二通の手紙（「中学道徳 あすを生きる3」日本文教出版）
 【ねらい】立法者の視点を大切にしようとする態度を育てる。

園のきまりを守るか姉弟の思いを大切にするか悩む主人公を通して、法やきまりは、権利や幸せを守るために皆で知恵を出して作られたものであること、それらに従うことも思いやりのある行為であることを複数時間で考え、議論する中で、自己の生き方について考えを深める。

1 時間目 【内容項目】「遵法精神、公德心」×「思いやり、感謝」

2 時間目 【内容項目】「遵法精神、公德心」×「思いやり、感謝」

導入

法やきまりは必要なのだろうか
↓問題意識を持つ
事前アンケートの確認

交流・話し合い

- 教材を読み、元さんの生き方について考える。
- 【発問】姉弟を入園させた元さんの行動に賛成か、反対か。
- 自分の考えを整理（1回目の判断）
- 【発問】なぜそう考えたか。
- グループ内での話し合い
- 全体で交流

まとめ

- 話し合いを振り返り、自分の考えを整理（2回目の判断）
- 新たな問題意識
主人公の生き方に対する判断は正しいのだろうか。
- 次時までには法やきまりの役割や意義について、諸事例を基に調べておく。

前時の振り返り

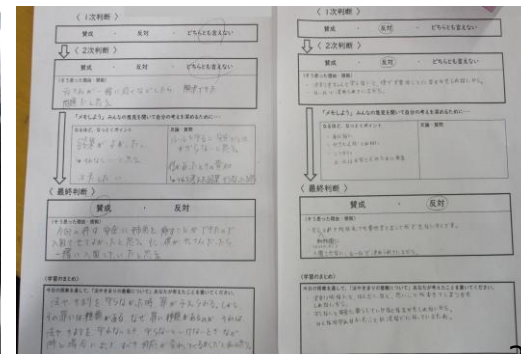
2回目の判断や調べたことを基に新たな問題意識の再確認

議論・話し合い

- 【発問】主人公が大切にしたい生き方は何だったのか。
- 自分の考えを端末に記載
 - グループ内での話し合い
 - 全体で交流
 - 交流後、最終判断（3回目）

全体のまとめ

- 自分なりの判断を基に学習を振り返る。
- ↓
- 対立する道徳的価値について、自分なりの問題意識を踏まえながら振り返り、自己の生き方への目標や課題をもつ。





2. デジタル学習基盤の活用について

具体的論点（案）

1. 道徳科におけるデジタル学習基盤活用の考え方 【補足イメージ1】

- 総則・評価特別部会では、デジタル学習基盤について、「主体的・対話的で深い学びを実現する基礎」として、「適切に活用した学習活動の充実を図る」ことを総則で示すことが検討されており、道徳科の特質を踏まえた効果的な活用の在り方を検討する必要。
- 道徳科における「深い学び」のイメージとして、多面的・多角的な見方へと発展すること（多面化・多角化）、自身との関わりで道徳的価値の理解が深まること（自我関与）の要素について議論してきたことや、リーディングDXスクールをはじめとする様々な実践の蓄積を踏まえ、道徳科において効果的と考えられるデジタル学習基盤の活用イメージとその際の留意事項について、以下のとおり解説等で示してはどうか。

1. 意見の可視化・比較：

アンケート機能や付箋機能等を用い、全員の意見を可視化・共有することで、多様な子供の考えを拾い上げ、自我関与や多面化・多角化を促進する 等（留意事項）可視化された意見を参照することが、議論の深まりや考えの多面化・多角化につながっているか、共有にあたり必要な配慮（※）が行われているか 等

（※） いじめや人権に関することや、共有を前提とすることで、子供が本心を出しにくくなること等

2. 振り返り等の蓄積：

デジタルワークシート等を活用し、振り返りの蓄積や、授業の導入時と終末時での考えの変容を比較することで、自己の考えの変化を実感しやすくする 等（留意事項）入力作業そのものが目的化せず、考えを深める時間を十分に確保できているか、入力した内容を踏まえ、学級の実態を把握しているか 等

3. その他：

AIに異なる立場の意見を示させること等により、考えの多面化・多角化を促進する、体験的な学習の一環として、オンラインで当事者の話を聞く、動画を含むデジタル教材を活用することで文字だけでは得られない情報と向き合ったり、授業での学びを授業後に任意で深めたりする、帰宅後に意見を書き込む 等（留意事項）AIの回答を正解として扱うのではなく、道徳的諸価値との関わりで批判的に吟味できているか、自分で考えた後で補助的にAIを活用するなど、迷いや葛藤を含め子供自身が考える機会が確保できているか 等

2. デジタルの活用に関わる内容項目固有の留意点 【補足イメージ2】

- 道徳科の内容項目は、A～Dの4つの視点で整理されているが、自己の内面を見つめ、考え、議論するとの道徳科の特質から、内容項目によって、デジタルの活用について特に留意が必要な場合も考えられる。このため、「意見の可視化」をはじめとするデジタルの活用にあたって留意が必要な内容項目の例や具体的な留意事項について、以下のとおり示してはどうか。

A) 主として自分自身に関すること

✓ 自分自身に関することについては、多面化・多角化を促す上で有効と考えられる

B) 主として人との関わりに関すること

✓ 友情、信頼、相互理解、寛容：いじめられた経験を思い出したり、身近な友達の氏名を出しながら振り返りを行ったりする可能性があることに配慮が必要
※C 公正、公平、社会正義についても同様

C) 主として集団や社会との関わりに関すること

✓ 家族愛、家庭生活の充実：多様な家族構成や家庭状況があることを踏まえた配慮が必要
✓ 国際理解、国際親善：宗教が社会で果たしている役割や宗教に関する寛容の態度などに関しては、教育基本法第15条の規定を踏まえた配慮が必要

D) 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること

✓ 生命の尊さ：家族の病気や自分の健康に関わる問題等から、思い出したくなかったり、不安を感じたりする可能性があり配慮が必要

具体的論点（案）

3. 道徳科におけるAIの活用

- AIに関する検討課題として、第6回情報技術WGでは、「各教科等における効果的なAIの活用例を含む、具体的な利活用のポイントは、各教科等WGでの検討や諸外国の議論、学校現場における実践の蓄積等を踏まえつつ、指導要領改訂を待たずしてガイドライン等で対応する」とされている。
- その上で、道徳科の学びにおけるAIの活用については、AIに異なる立場の意見を示させるといった実践事例があり、こうした活用は、自己の生き方についての考えを深めるにあたり、考えの多面化・多角化を促進する上で一定の効果が期待できると考えられる。
- その上で、こうしたAIの活用にあたっては、
 - ✓ AIの回答を正解として扱うのではなく、道徳的諸価値との関わりで批判的に吟味できているか
 - ✓ 自分で考えた後で補助的にAIを活用するなど、迷いや葛藤を含め子供自身が考える機会が確保できているかといった留意点があると考えられることから、こうした留意点を含むAIの活用について、各教科等における検討状況も踏まえつつ、柔軟に更新できる形で国が示すことを検討すべきではないか。

（※）現代的諸課題としてAIを捉えた場合には、AIの回答について批判的に吟味すること自体が道徳性の諸様相を育む上で重要であり得ることに留意。

道徳科におけるデジタル学習基盤の活用について

- 総則・評価特別部会では、デジタル学習基盤について、「主体的・対話的で深い学びを実現する基礎」として、「適切に活用した学習活動の充実を図る」ことを総則で示すことが検討されており、**道徳科の特質を踏まえた効果的な活用の在り方**を検討する必要。
- 道徳科における「深い学び」のイメージとして、多面的・多角的な見方へと発展すること（多面化・多角化）、自身との関わりで道徳的価値の理解が深まること（自我関与）の要素について議論してきたことや、リーディングDXスクールをはじめとする様々な実践の蓄積を踏まえ、**道徳科において効果的と考えられるデジタル学習基盤の活用イメージとその際の留意事項**について、以下のとおり解説等で示してはどうか。

(※) あくまでも大まかなイメージであり、深い学びの実装に向け、子供の実態に応じた様々な創意工夫が制限されるものではないことに留意

活用イメージ	具体例	留意事項
1. 意見の可視化	<ul style="list-style-type: none"> アンケート機能や付箋機能等を用い、<u>全員の意見を可視化し共有することで、多様な子供の考えを拾い上げ、自我関与や多面化・多角化を促進する</u> 等 	<ul style="list-style-type: none"> 可視化された意見を参照することが、<u>議論の深まりや考えの多面化・多角化につながっているか</u> 共有にあたり必要な配慮(※)が行われているか 等 <small>(※) いじめや人権に関することや、共有を前提とすることで、子供が本心を表出しにくくなる・求められる正解探しにつながり易くなること等</small>
2. 振り返り等の蓄積	<ul style="list-style-type: none"> デジタルワークシート等を活用し、<u>導入・展開・振り返り時の考えの蓄積や、授業の導入時と終末時での考えの変容を比較すること等を通じて、自己の考えの変化を実感しやすくする</u> 等 	<ul style="list-style-type: none"> <u>入力作業そのものが目的化せず、考えを深める時間を十分に確保できているか</u> 等
3. その他 (AIの活用を含む)	<ul style="list-style-type: none"> AIに異なる立場の意見を示させること等により、<u>考えの多面化・多角化を促進する</u> 体験的な学習の一環として、<u>オンラインで当事者の話を聞く</u> <u>動画を含むデジタル教材を活用することで文字だけでは得られない情報と向き合ったり、授業での学びを授業後に任意で深めたりする</u> 帰宅後に意見を書き込む 等 	<ul style="list-style-type: none"> <u>AIの回答を正解として扱うのではなく、道徳的諸価値との関わりで批判的に吟味できているか</u> <u>自分で考えた後で補助的にAIを活用するなど、迷いや葛藤を含め子供自身が考える機会が確保できているか</u> 等

デジタルの活用に関わる内容項目固有の留意点について

- 道徳科の内容項目は、A～Dの4つの視点で整理されているが、自己の内面を見つめ、考え、議論するとの道徳科の特質から、**内容項目によって、デジタルの活用について特に留意が必要な場合も考えられる。このため、「意見の可視化」をはじめとするデジタルの活用にあたって留意が必要な内容項目の例や具体的な留意事項**について、以下のとおり解説等で示してはどうか。

指導要領に定める視点	留意すべき内容項目の例	留意事項
A 主として自分自身に関すること	善悪の判断 正直、誠実 克己と強い意志 等	<ul style="list-style-type: none"> • 考えの多面化・多角化を促す上で有効である一方、「言いたくないことまで言わされる」といった自己の内面の開示への圧力や、共有を前提とした<u>建前の記述につながり易いこと</u>等に配慮が必要
B 主として人との関わりに関すること	友情、信頼 相互理解、寛容 等	<ul style="list-style-type: none"> • <u>いじめられた経験を思い出したり、身近な友達の氏名を出しながら振り返りを行ったりする可能性があること</u>等に配慮が必要 ※C 公正、公平、社会正義についても同様
C 主として集団や社会との関わりに関すること	家族愛、家庭生活の充実 国際理解、国際親善 等	<ul style="list-style-type: none"> • <u>多様な家族構成や家庭状況があることを踏まえた配慮が必要</u> • <u>宗教が社会で果たしている役割や宗教に関する寛容の態度など</u>に関しては、<u>教育基本法第15条（宗教教育）の規定を踏まえた配慮が必要</u>
D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること	生命の尊さ 等	<ul style="list-style-type: none"> • 家族の病気や自分の健康に関わる問題等から、<u>思い出したくなかったり、不安を感じたりする可能性</u>に配慮が必要

(※) 共有に適さない情報等の留意点や、無記名で共有したり、共有する記述を分けて運用するような工夫例等についても、併せて解説において示すことを検討。

參考資料

道徳科におけるデジタル学習基盤の活用事例

一般的な学習指導過程

導入

主題に対する生徒の興味や関心を高め、学習への意欲を喚起して、生徒一人一人のねらいの根底にある道徳的価値や人間としての生き方についての自覚に向けて動機づけを図る段階。
(中学校解説P86 (以下同じ))

展開

教材によって、ねらいの根底にある道徳的価値の理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、道徳的価値や人間としての生き方についての自覚を深める段階。

終末

道徳的価値に対する思いや考えをまとめたり、道徳的価値を実現することのよさや難しさなどを確認して、今後の発展につなげたりする段階。

活用事例

事例① アンケート調査による多様な意見の可視化

可視化

事例⑤ 導入と終末でのアンケート調査による意見の変容の可視化

可視化

事例⑦ 過去の自分の考えや思ったことを振り返り自身の成長を実感

蓄積

事例⑧ 小規模校同士の遠隔合同授業により多様な意見に触れる機会を確保

その他 (遠隔)

事例② プレゼンテーションソフトと学習支援ソフトのファイル共有機能の活用

可視化

事例③ クラウド上で友達の考えや自身の過去の考えを参照

可視化

蓄積

(再掲：事例⑧ 小規模校同士の遠隔合同授業により多様な意見に触れる機会を確保)

その他 (遠隔)

AI事例① 生成AIを活用して自らの考えを多面的・多角的に考察してからグループで議論

その他 (AI)

AI事例② 発問に対する回答案を生成AIで多数作成し自身の考えと照らしあわせ考えを深める

その他 (AI)

事例④ 文書作成ソフトの活用

可視化

(再掲：事例⑤ 導入と終末でのアンケート調査による意見の変容の可視化)

可視化

事例⑥ 多様な視点から考えたことを他者と共有し交流

可視化

(再掲：事例⑦ 過去の自分の考えや思ったことを振り返り自身の成長を実感)

蓄積

(※) あくまでも活用事例の1つであり、デジタル学習基盤を活用すること自体が目的化することなく、道徳科における「深い学び」を通じて内面的資質としての道徳性を養うことにつなげられるかが重要であることに留意。

※生成AIは、生徒が自己の考えをしっかりとった上で活用することに留意。

道徳科におけるデジタル学習基盤の活用事例①

小学校3年生

※道徳教育アーカイブ掲載事例より

導入

可視化

【**主題名**】信頼しあう友達関係っていいな 【**内容項目**】友情、信頼

【**教材名**】絵葉書と切手（「新版 みんなのどうとく3」Gakken）

【**ねらい**】友達と互いに理解し、信頼し合おうとする心情を育てる。

導入の場面で、学習支援ソフトを活用してアンケート調査を実施し、「友達関係について、振り返ってみましょう」と問いかけ、結果を共有することで、異なる考え方に触れ、児童がねらいに関わる道徳的諸価値について具体的な問題意識を持つことができるようにした。

導入

● 友達関係に関するアンケートを行う。

【アンケートの項目】

- ・ 友達には何でも言える
- ・ 友達だから、言いにくいこともある
- ・ 友達のために思って悩んだことがある



本時の学習を通じ、「友達とこれからもっと仲を深めていくためにどうすればよいか」ということについて、じっくり考えていくことを確認する。

展開

● 「絵葉書と切手」を読み、話し合う。

【**発問**】友達にどのように返事を書いたらよいか迷ってしまったひろ子はどんな気持ちだったのだろうか。



問題意識を基に登場人物の生き方について、自分との関わりで捉えられるようにする。

終末

● 教師の説話を聞く。

【**発問**】友達を思って悩んだことや友達を信じて行動してもっと仲良くなれたと感じたことはあるか。

● 登場人物の生き方やこれまでの経験を基に自身の友達関係を振り返る。



お互いを理解し、信頼し合う友達関係を築くよさについて、より深く考えられるようにする。



道徳科におけるデジタル学習基盤の活用事例②

小学校3年生

※stuDX Style掲載事例より

展開

可視化

【**主題名**】正しいことは自信をもって

【**内容項目**】善悪の判断、自律、自由と責任

【**教材名**】よわむし太郎（「私たちの道徳」文部科学省）

【**ねらい**】正しいと判断したことは、自信をもって行おうとする心情を育てる。

展開の場面で、端末の座標軸上に、自分の考えが当てはまる場所に好きなマークを書き加え、その後、マークを入れた座標軸を**学習支援ソフトのファイル共有機能を使って共有**することで、**児童が多面的・多角的に考えることができるようにした。**

導入

- 事前アンケート結果を確認する。
- 自分が正しいと思うことについて話し合う。

【**発問**】

自分が正しいと思ったことを相手に伝えたり、行動に移したりしたことがあるか。



本時のねらいである「正しいと思ったことは、自信をもって行おうとする」と関連付けて考えられるようにする。



展開

- 「よわむし太郎」を読んで考える。

【**発問**】

殿様の前に立ちはだかっていた太郎は、どのようなことを考えていたのだろうか。



子供が自分の考えを端末の座標軸に書き込み、共有し、友達の考えを視覚的に知ることができるようにする。



終末

- 教師の説話を聞く。
- 自信をもって行おうとしても実現することが難しいことや、考えた方は多様であることを踏まえながら自身の感じたこと、考えたことをまとめる。



事前アンケートと学習したことを関連付けながらねらいとする道徳的価値について振り返ることができるようにする。



道徳科におけるデジタル学習基盤の活用事例③

小学校4年生

※【協力】東京都荒川区立尾久小学校（教育課程実践検証協力校）

展開

可視化
蓄積

【主題名】異なる意見も大切に

【内容項目】相互理解、寛容

【教材名】学級会での出来事（「道徳4 きみがいちばんひかるとき」光村図書）

【ねらい】自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、相手のことを理解し自分と異なる意見も大切にしようとする態度を育てる。

展開の場面で、児童が自分の考えを端末に入力したり、友達の考え等をクラウド上で参照したりすることができる時間を確保し、さらに、年度当初からクラウドに道徳科の学習の振り返りを蓄積したり、自身のエピソードを累積したりできるようにし、それらを本時の学習で活用できるように工夫することで、自己の生き方についての考えを深めることができるようにした。

導入

- 自分と違う意見が出た場面の気持ちを確認する。

【発問】
自分の意見が友達と違ってまとまらないとき、どのようなことを考えているか。

↓

本時のねらいである「自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、相手のことを理解し自分と異なる意見も大切にしようとする」と関連付けて考えられるようにする。

展開

- 「学級会での出来事」を読んで考える。
【発問】
どのようなことで意見がまとまらなかったのか。
- 自己の生き方についての考えを深める。
【発問】
自分と違う考えが出たときどうしていったらいいと思うか。

↓

児童が教師の投げかけから再び自己を見つめたり、友達の考えや自分の過去の考えをクラウド上で参照したりする中で、自己の生き方についての考えを深められるようにする。

終末

- 教師の説話を聞く。
- これまでの経験を想起し、今日の学習で見えてきた自分の課題や新たに見つけた目標を書く。

↓

教師が言葉のプレゼントをすることで、ねらいとする道徳的価値について、余韻を持てるようにする。



道徳科におけるデジタル学習基盤の活用事例④

小学校5年生

※stuDX Style掲載事例より

終末

可視化

- 【**主題名**】誠実な生き方 【**内容項目**】正直、誠実
【**教材名**】手品師（「小学校道徳の指導資料とその利用 1」文部省）
【**ねらい**】常に誠実に行動し、明るい生活をしようとする心情を育てる。

終末の場面で、**学習支援ソフトのファイル共有機能と文書作成ソフト活用**し児童が端末に入力した**考えを共有したり、意図的に共有しなかったり**できるようにすることで、児童がじっくりと、**自己の生き方についての考えを深め、率直に表現**することができるようにした。全児童の内容を端末で確認しながら、**個別に対応する場の設定と時間の確保**をした。

導入

- 事前アンケート結果を確認し、その結果を踏まえながら、正直、誠実に行動することができた経験について話し合う。



導入での学習を終末での振り返りに生かすことができるように、**大型装置**で提示する。

展開

- 「手品師」を読んで考える。
【発問】
 - ・友人から電話がかかってきたとき、手品師はどんな気持ちだっただろう。
 - ・次の日、手品師が男の子に手品を見せている時、どんな気持ちだっただろう。



児童が**感じたこと、考えたこと**等を端末に**入力**できるようにする。

終末

- ねらいとする道徳的価値である「誠実」について考えをまとめ、友達のまとめた考えを見ながら自分のよさや課題をみつける。

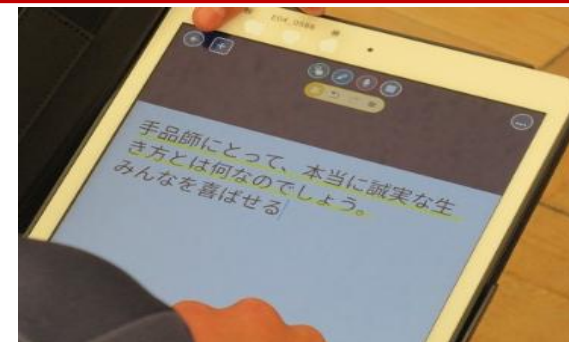
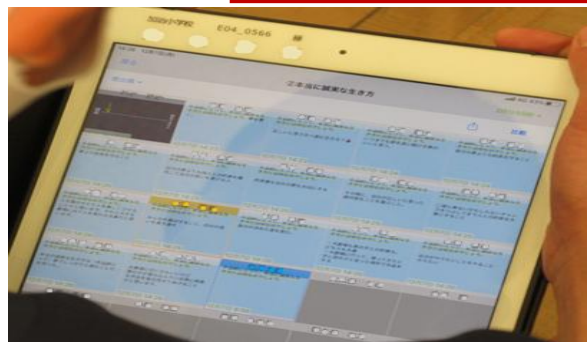


率直に表現した考えを共有することの可否を本人に確認した上で、**可能な児童のみ、学習支援ソフトのファイル共有機能を使って大型提示装置に投影し学級全体で共有**。児童の**多面的・多角的な見方への発展**につながるようにする。

- 振り返りの結果を深める。



全児童の考えを端末で把握することによって**意図的に指名し、特定の児童の考えを他の児童に紹介**できるようにする。毎時間蓄積された児童の考えは、継続的に行われた道徳科の授業で一人一人の児童の学習状況を見取って行われる評価の資料としても活用する。



道徳科におけるデジタル学習基盤の活用事例⑤

中学校2年生

※道徳教育アーカイブ掲載事例より

導入
終末

可視化

【主題名】社会への貢献

【内容項目】勤労

【教材名】小さな工場の大きな仕事（日本文教出版）

【ねらい】誇りをもって働く家族の姿に接したことで働くことについての考えを変えた登場人物の生き方を通して、それぞれの職業が社会の発展に貢献していることを理解し、自己の将来の生き方について考えを深めようとする実践意欲を育てる。

導入と終末の場面において、アンケート調査結果を可視化し、クラス全体の考えの変容を確認するとともに、他者の意見とその変容も踏まえながら、自分の考えをより深めることができるようにした。

導入

- 働くことに関するアンケートを行う。
【アンケートの項目】
 - ・ 上級学校を卒業後に働きたいか。
 - ・ 「働く」と聞いて何を思い浮かべるか。
- テキストマイニングにより事前アンケートのクラス全体の結果の傾向性を可視化する。

ねらいに関わる道徳的価値について関心や問題意識をもつことができるようにする。

展開

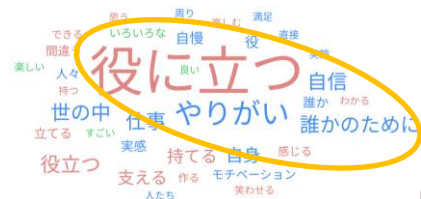
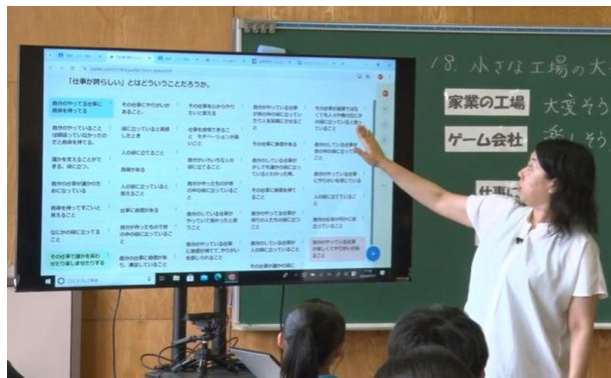
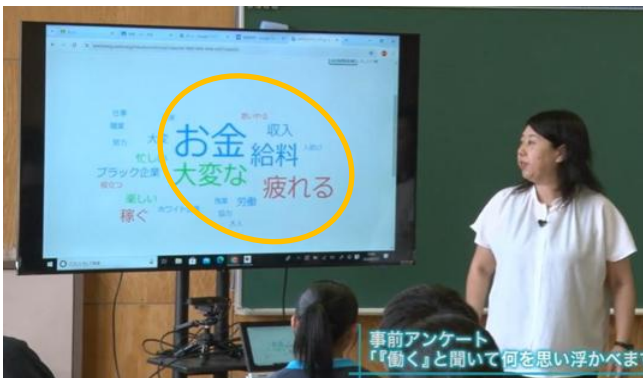
- 「小さな工場の大きな仕事」を読み取る。
【発問】
機械の油で黒く汚れた父の手が誇らしく見えたのはなぜだろうか。
● 家業が誇らしくなった主人公の気持ちの変化について考えを深め、全体で共有する。

導入時に確認した「働く」ことに対する自分の捉えと、主人公の「働く」ことに対する気持ちの変化とを重ねて考え、主人公の気持ちの変化の理由について考えを深めた。

終末

- 再度アンケートを実施し、テキストマイニングでクラス全体の考えの変化を確認。それらを基に自分の考えをまとめるとめる。

将来、働くときに大切にしたいことを他者の意見も踏まえつつ、自分の生き方と関連付けて考える。



※終末時点のテキストマイニングイメージ



道徳科におけるデジタル学習基盤の活用事例⑥

中学校2年生

※道徳教育アーカイブ掲載事例より

終末

可視化

【主題名】相互理解のための一歩

【内容項目】国際理解、国際貢献

【教材名】むこう岸には（中学道徳2 光村図書）

【ねらい】お互いに理解し合うために一歩を踏み出した二人の思いを考えることを通して、国際的な相互理解のための一歩を自分から踏み出そうとする実践意欲を育む。

終末の場面でデジタル学習端末を用いて、3つの視点から生徒が考えたことや感じたことをまとめて他者と共有し、それを基に交流することで、授業の終末において道徳的価値について理解を深め、自分ならどうするかを考えるための振り返りを行うことができた。

導入

- 世界で起こっている紛争地域（授業当時）を示した地図を投影する。



授業の内容に関心をもたせる。

- 教材を読み取り、内容を整理する。



これまで川に橋が架かっていなかった理由を考え、教材に対する問題意識を高める。



展開

【発問】

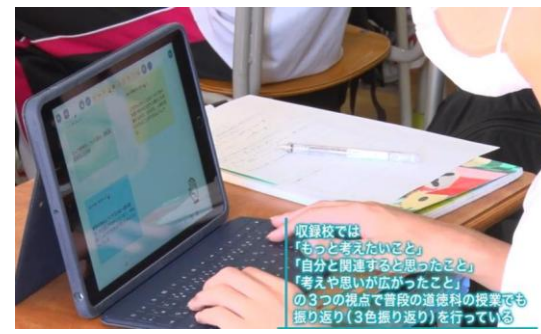
橋のない川に橋を架けたい、という二人の登場人物にはどのような思いがあったのだろう。

- 最初に自分一人で考えを記入し、その後グループで共有する。
- 仲良くしたいという気持ちをもっている人がいるのに、世界中に紛争があるのはどうしてか、考えて再度グループで話し合う。



終末

- 「もっと考えたいこと」「自分と関係すると思ったこと」「考えや思いが広がったこと」の3つの視点から考えたことや感じたことを入力する。
- 記入が終わったら、他者の記入した感想やまとめを読み、自分の考えをさらに深め、発表する。



道徳科におけるデジタル学習基盤の活用事例⑦

小学校3年生

※【協力】東京都杉並区立杉並第九小学校

導入
終末

蓄積

【主題名】がんばる自分をささえる思い 【内容項目】希望と勇気、努力と強い意志
【教材名】「あんぱんの日」－木村安兵衛・英三郎（「新編 新しいどくとく3」東京書籍）
【ねらい】あきらめずに頑張るために自分を支える思いを考え、自分でやろうと決めたことは粘り強くやり抜こうとする態度を育てる。

導入の場面で、**第1・2学年時の成長の記録を活用**し、成長したと思うことや頑張ったと思うことを振り返られるようにすることで、自身の成長を実感できるようにするとともに、あきらめずに**頑張ろうとする思いが自身に備わっていることに気付く**ことができるようにした。

導入

- あきらめずに頑張ってきた自己の経験を想起する。

【発問】

- 第1・2学年時の成長の記録を見返して、成長したと思うことや頑張ったと思うことは何か。
- あきらめずに頑張る自分を支えているのは、どのような思いなのだろう。

↓
第1・2学年時の成長の記録を活用し、成長への実感をもつことができるようにする。

※成長の記録は、端末を活用してクラウド上に蓄積しておくことも考えられる。

展開

- 「『あんぱんの日』－木村安兵衛・栄三郎」を読んで考える。

【発問】

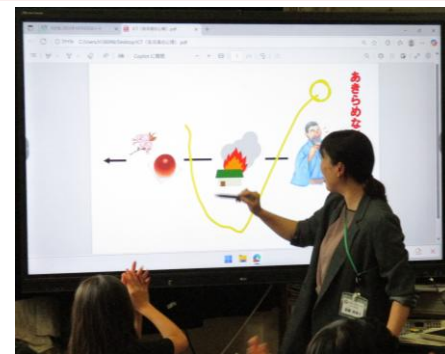
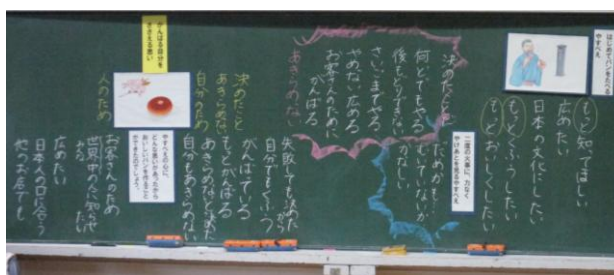
二度目の火事に、力なく焼け跡を見る安兵衛は、どんな思いだったのだろう。

↓
頑張ることに対して消極的な思いは青、前向きな思いは赤で板書に示す。また、葛藤する思いは中間に示し、頑張ることへの思いを多面的・多角的に考えることができるようにする。

終末

- 教師の説話を聞く。
- 学習してきたことを基に、あきらめずに頑張る自分を支える思いを考える。

↓
ICTを活用して安兵衛の思いの変化を可視化し、振り返りにつなぐことができるようにする。



道徳科におけるデジタル学習基盤の活用事例⑧

小学校6年生

※「遠隔学習導入ガイドブック 第3版」参考 学校①5人、学校②11人

導入
展開

その他
(遠隔)

【主題名】広い心で受け入れる

【内容項目】相互理解、寛容

【教材名】銀のしよくだい

【ねらい】相手を許すことによさに気づき、広い心で受け入れようとする実践意欲を育てる。

遠隔合同授業で、展開の場面に、**両校児童が議論する場を設定**したり、児童の立場を大型提示装置に示し、**児童の意識の変化を比較できるように提示**したりすることで、児童が**話し合い活動を通して、多様な感じ方、考え方に触れ、多面的・多角的に考えを深める**ことができるようにした。

導入

- 教材を読み登場人物が取った行動について考える。

【発問】

(ビデオ通話を通じた両校児童への問いかけ)

助けてくれたにもかかわらず、銀の皿を盗んで逃げた登場人物の行動をどう思うか。

※大型提示装置に挿絵を示す。

展開

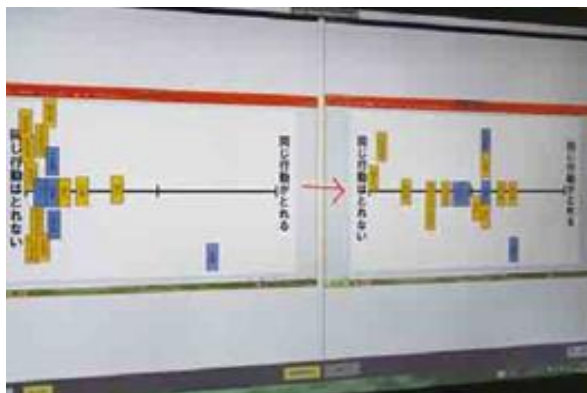
- 司教の行動について、自分の考えをワークシートに書く。
- 多様な感じ方、考え方に触れ、自己をより深く見つめる。
- 両校児童で議論する中で**考えが変わった児童は、自分の名前を動かす**。また、議論する前後の様子を比較画面で示すようにする。

終末

- 教師の説話を聞く。
- 広い心で受け入れるということについて、司教の生き方や友達の多様な考え等を基に自分なりの感じたことをまとめる。



これまでの自分、これからの自分について考え、ワークシートに記入できるようにする。



道徳科におけるAIの活用事例①

中学校2年生

※【協力】埼玉県幸手市立幸手中学校（文部科学省リーディングDXスクール生成AIパイロット校）

展開

その他
(AI)

【**主題名**】希望をもち続け、困難を乗り越えて進む力 【**内容項目**】希望と勇気、克己と強い意志

【**教材名**】鳩が飛び立つ日ー石井筆子ー（「私たちの道徳」文部科学省）

【**ねらい**】石井筆子の生き方を考える学習を通して希望を持ち続け、勇気を出して困難に立ち向かう価値を深く理解するとともに、高い目標を持ち、それに向けて努力を惜しまない態度を育てる。

展開の場面で**生成AIを活用し、自らの考えを多面的・多角的に考察してからグループでの議論**ができるように工夫し、努力を続けることの大切さを深く考えることができるよう、主体としての自己をより深く見つめることができるようにした。

※生成AIは、生徒が自己の考えをしっかりとった上で活用するということに留意が必要。

導入

- 教材の時代背景や筆子、亮一の人物像を知る。

明治時代初期の社会背景等を解説し、登場人物の状況をつかむことができるようにする。

展開

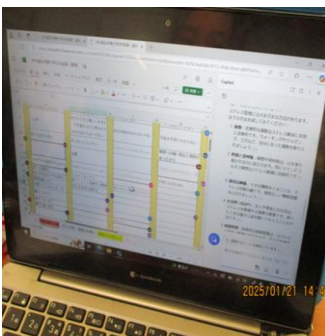
- 「鳩が飛び立つ日」を読んで考える。
【発問】
筆子の姿から、どんな気持ちや行動が私たちにとって大切だと思うか。
- 自己の考えをもつ→生成AIを活用し考察（筆子の生き方を通して考えた「希望」、「勇気」、「困難を乗り越える」などの自己の道徳的価値観を単語で入力し、生成AIの回答とを比較検討。）
- グループ協議

生成AIを活用することによって、自己の感じ方、考え方をより確かなものにしてグループ協議に臨む姿が見られた一方、生成AIを活用する際、自己の考えをしっかりとっていない場合に、生成AIの肯定的な意見を自己の考えと思いついてしまう懸念があるため、指導に留意が必要。

終末

- 筆子の生き方や友達との議論を通して感じたこと、考えたことなどから自己を振り返る。

端末を活用することにより、自己の生き方についてまとめたことをいつでも振り返られるようにする。



道徳科におけるAIの活用事例②

中学校3年生

※【協力】新潟市立小新中学校（文部科学省リーディングDXスクール生成AIパイロット校）

展開

その他 (AI)

【主題名】真理を探究する心 **【内容項目】**真理の探究、創造
【教材名】鉄腕アトムをつくりたい--人工知能研究は人間探究（「中学道徳3 きみがいちばんひかるとき」光村図書）
【ねらい】人工知能研究にける筆者の経験や思いをつづった文章を通して、真理を探究する心について考えさせ、真理や真実を求め好奇心をもって探究し続ける心情を育てる。

教師が授業準備として、**生成AIを使って発問に対する回答例を10種類作成**する。また、展開の場面では、**生徒がその10種類の回答例を自分の考えと照らし合わせながら四象限で配置し、それを基に話し合う中で人間としての生き方についての考えを深める**ことができるようにした。

※生成AIは、生徒が自己の考えをしっかりとった上で活用するということに留意が必要。

導入

- 「人工知能」開発の現状を知る。
- 「人工知能」について意見交換をする。

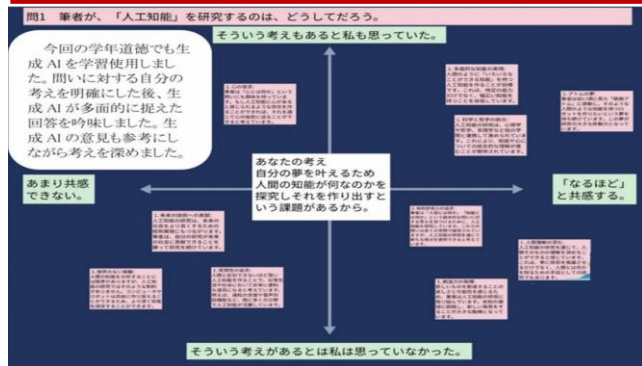
→問題意識を持つ
 ニュース等の映像で「人工知能」開発の現状を確認した上で意見交換を行い、問題意識をもつ。

展開

- 「鉄腕アトムをつくりたい」を読んで考える。
【発問】
 筆者が「人工知能」を研究するのは、どうしてだろう。

- 端末の思考ツールに入力→話し合い

自分なりの考えをまとめた後、生成AIが作成した10個の回答例を自分の考えと照らし合わせながら、端末の四象限に書き込む。



横軸：共感するかしないか
縦軸：そういう考えもあると思っていたか思っていなかったか

終末

- 「知的好奇心」や「知的欲求」とはどんな心か、真理を探究、創造し続けるためにどんな思いを大切にしたいか自身の考えをまとめる。

松原さんの生き方や友達との議論を通して感じたこと、考えたことなどから自己を振り返る。

今日の発表内容

渡辺弥生

- (1) 現代的課題に対応した道徳教育を支える基盤の充実と推進
- (2) 発達段階や個人差を考慮した指導の工夫
- (3) ソーシャル・エモーショナル・ラーニング (SEL) の視点を踏まえた2コマ構成による指導の工夫
- (4) まとめ：道徳教育における実践化に向けて

さまざまな問題行動の未然防止のために「**道徳**」をパワフルに

多くの子どもたちが、さまざまな心理的・社会的困難に直面。2013年には、「いじめ問題」の深刻化を背景として「いじめ防止対策推進法」が制定。

いじめの取り組みについては、道徳の教科化を通じた質的な転換がはかられ、未然防止に資する教育として、その重要性が、大臣の発言や各種施策文書にも記載されている

しかしながら、重大ないじめ事案の発生、不登校児童生徒数、学校内における暴力、自死の発生件数も年々増加し、引き続き注視が求められる状況にある。こうした現状を踏まえ、教科としての道徳が、これらの課題の未然防止に資する取組として、より一層実効性を高めていくことが期待される（右グラフ参照）。

こうした課題は我が国に限らず国際的にも共有されており、その予防的な観点から、子どもの発達を支える教育の枠組みについての関心が高まっている。国際的には「ソーシャル・エモーショナル・ラーニング（SEL）」等として整理。SELは、子どもの発達を日常的に支える教育の在り方として学校教育における指導の充実を図る上で、理論的・実践的な示唆を与えるものと考えられる。

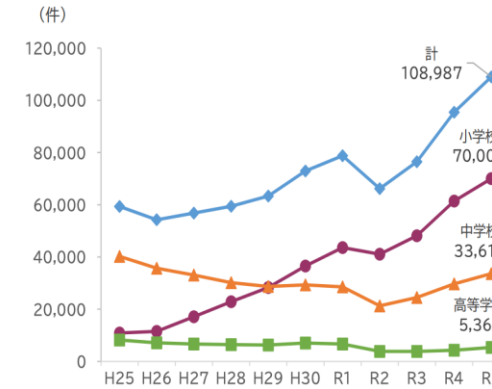
https://www.mext.go.jp/content/20200305-mxt_kyoiku02-100002180_1.pdf

https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/28/11/_icsFiles/afieldfile/2016/11/18/1279623_1_1.pdf

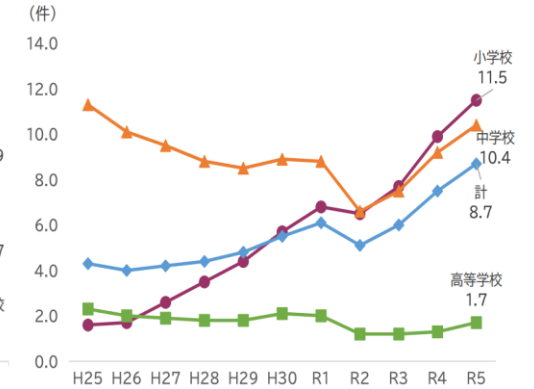
https://www.cfa.go.jp/assets/contents/node/basic_page/field_ref_resources/d614d2ed-c695-4fd6-8dc2-2e1662f5ead6/69c6d60d/20251121-councils-ijime-kaigi-d614d2ed-06.pdf

学校での暴力

暴力行為発生件数の推移

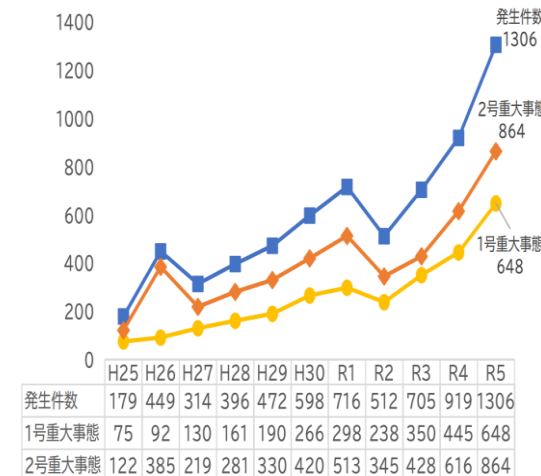


1,000人当たりの暴力行為発生件数



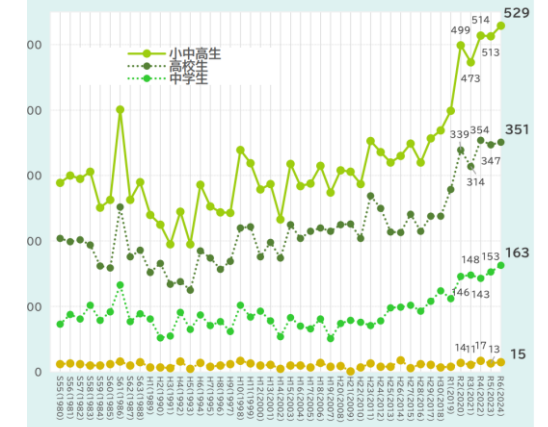
いじめの重大事態の推移

いじめ防止対策推進法第28条第1項に規定する「重大事態」の発生件数



小・中・高生の自殺者数の推移

- 小中高生の自殺者数は、増加傾向となっている。
- 令和6年(確定値)は、529人であり、過去最多となっている。



資料：警察庁自殺統計原票データより厚生労働省自殺対策推進室作成

https://www.cfa.go.jp/assets/contents/node/basic_page/field_ref_resources/9219343c-1a5f-40bd-b5b3-aa88e891dd71/5f623a63/20250916councils-kodomonojisatsutaisaku-kaigi-qnam0409-10.pdf

社会性や感情（情動、情緒）の発達を踏まえた教育的視点の位置付け

ソーシャル・エモーショナル・ラーニング（SEL）の考え方が普及

子どもと大人が、感情を理解し調整し、前向きな目標を設定し、他者への共感を示し、良好な関係を築き、責任ある意思決定を行うために必要な知識・スキル・態度を身につけ、実践するプロセスである。

日本でも生徒指導提要に記載されている(2022, p26) , 国立教育政策研究所(R2-5研究報告書、p349)でも調査されており、『道徳教育の理念と実践』(西野編,2020) 放送大学大学院教材、ソーシャルエモーショナルラーニング(渡辺・小泉,2022)などいくつもの書籍にも記載。SELについては、心理教育プログラムの総称として捉えられることがあるが、本来は、子どもの健全な発達や学びを支える教育のあり方のこと。

https://www.nier.go.jp/05_kenkyu_seika/pdf_seika/r05/r060424-02_honbun.pdf



Social and Emotional Skills for Better Lives

FINDINGS FROM THE OECD SURVEY ON SOCIAL AND EMOTIONAL SKILLS 2023

群馬県での取り組み

【政策と実践の改善に関する奨励事項】

- ・ 教師のフィードバックについて、特に生徒の強みに関するフィードバックを増やす。
- ・ 学校教育における社会情動的学習を促進する構造とマインドセットを創出する。

Durlak, J.A., Weissberg, R.P., Dymnicki, A.B., Taylor, R.D. and Schellinger, K.B. (2011), The Impact of Enhancing Students' Social and Emotional Learning: A Meta-Analysis of School-Based Universal Interventions. Child Development, 82: 405-432. <https://doi.org/10.1111/j.1467-8624.2010.01564.x>
Heckman(2006) Skill Formation and the Economics of Investing in Disadvantaged Children Science , vol.321900-1902. などから

質の高いSEL実践
社会情動スキルの向上



態度の変化
(学校への所属感
・向社会的態度)



行動の変化
(問題行動減少
・協力行動増加)



学業成績向上
・ウェルビーイング向上



長期的成果
(進学・就労・市民性)

いじめ等の未然防止に資するエビデンスに基づく教育の展開

Psychology in the Schools, 60 (10)
p.3694–3706 Oct 2023

Received: 21 October 2022 | Revised: 21 April 2023 | Accepted: 4 May 2023
DOI: 10.1002/pits.22947

RESEARCH ARTICLE

WILEY

The impact of social and emotional learning on students' bullying behavior: Serial mediation of social and emotional competence and peer relationship

Yushi You | Siyi Zhang | Wanying Zhang | Yaqing Mao

Faculty of Education, Beijing Normal University, Beijing, China

Correspondence

Yaqing Mao, Faculty of Education, Beijing Normal University, Beijing 100875, China.
Email: maoyaqing@bnu.edu.cn

Funding information

National Natural Science Foundation of China

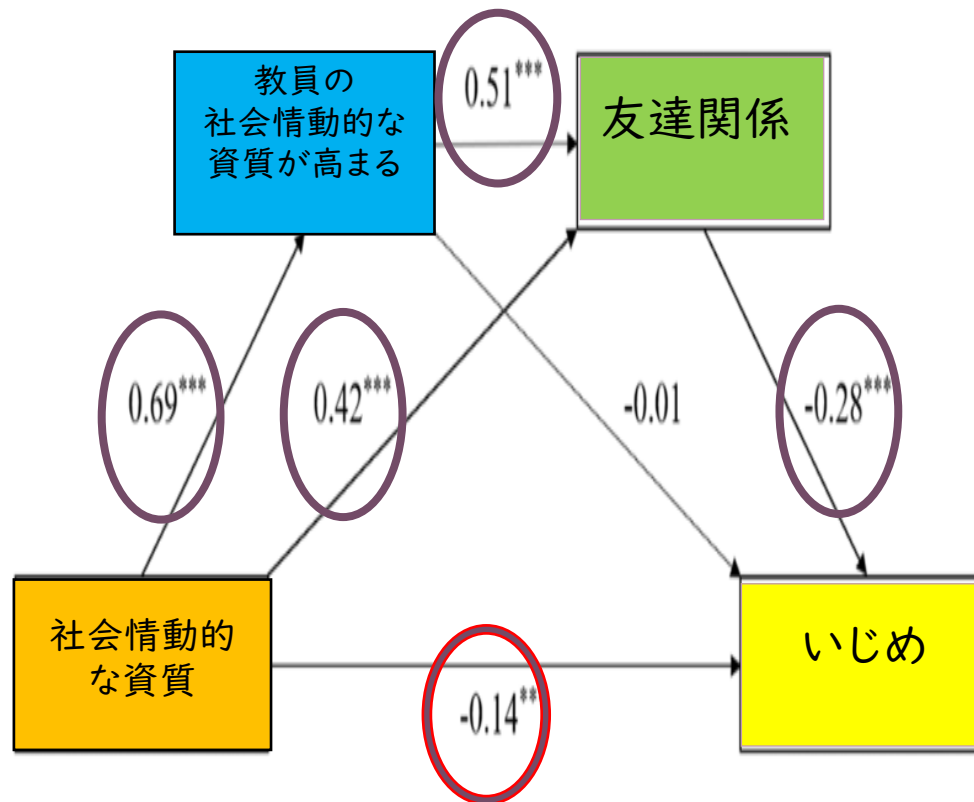
Abstract

Social and emotional learning (SEL) has gradually implemented in Chinese schools and is considered as an effective way to improve students' performance. This research aimed to study the influence of SEL on students' bullying behavior, and the role that social and emotional competence (SEC) and peer relationship play in SEL and students' bullying. The participants were 2049 students in primary and secondary schools in Beijing, China. SEM was used to examine the mediating role of SEC and peer relationship. The study found that SEL can significantly predict students' bullying behavior. In addition, SEC and peer relationship sequentially mediate the relationship between SEL and students' bullying behavior.

KEYWORDS

bullying behavior, peer relationship, social and emotional competence, social and emotional learning

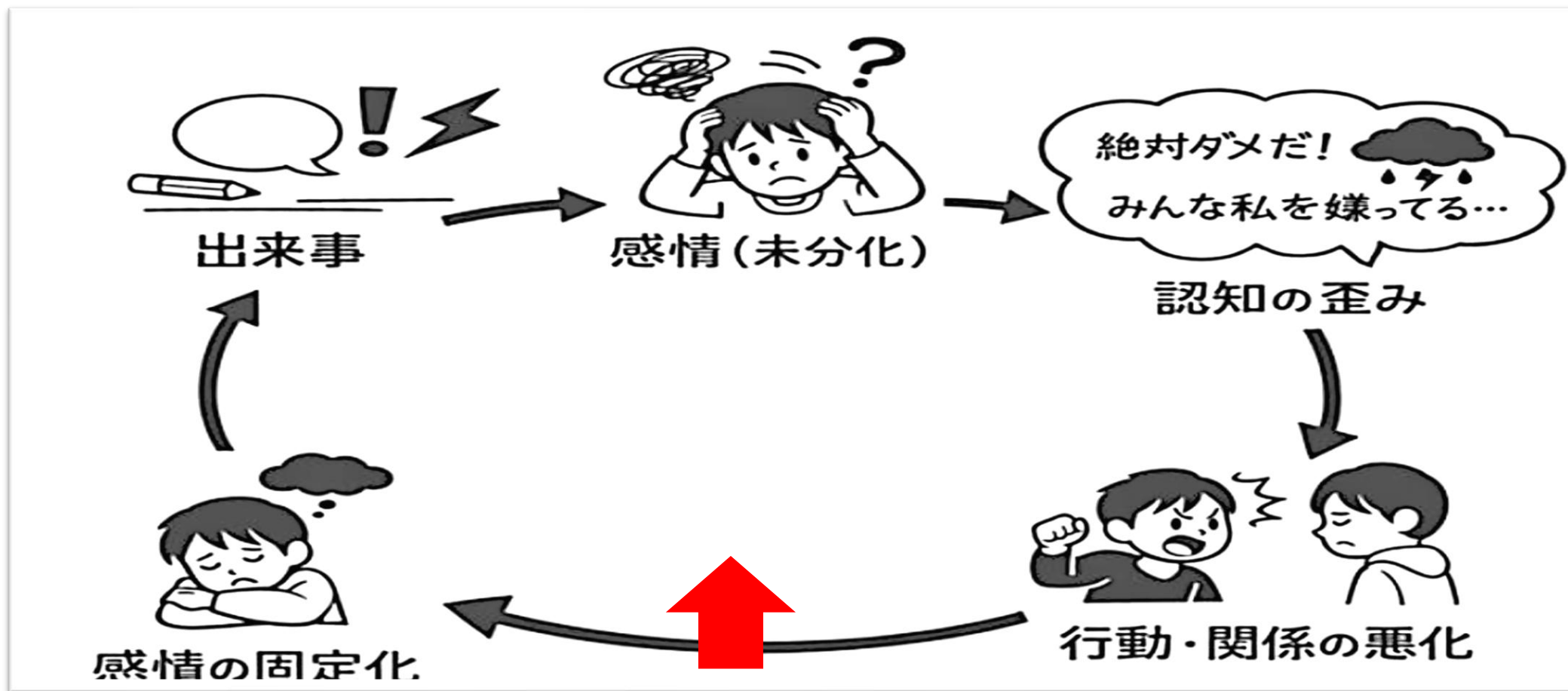
ソーシャルエモーショナルラーニングの効果を示した結果
→いじめ等の未然防止に有意な影響がみられる



対人関係や感情リテラシー

FIGURE 1 Serial mediation model. SEC, social and emotional competence; SEL, social and emotional learning.

子どもの内面の理解に基づく指導の明確化



SELで考えられる「こころ」のプロセス:

何か出来事に直面した時に、気持ちが混乱し、考え方も冷静でなく、適切な判断や行為を選び取れなかった時に、また自己嫌悪に陥るような悪循環を防いでいきたい。

(2) 発達段階や個人差を考慮した指導の工夫

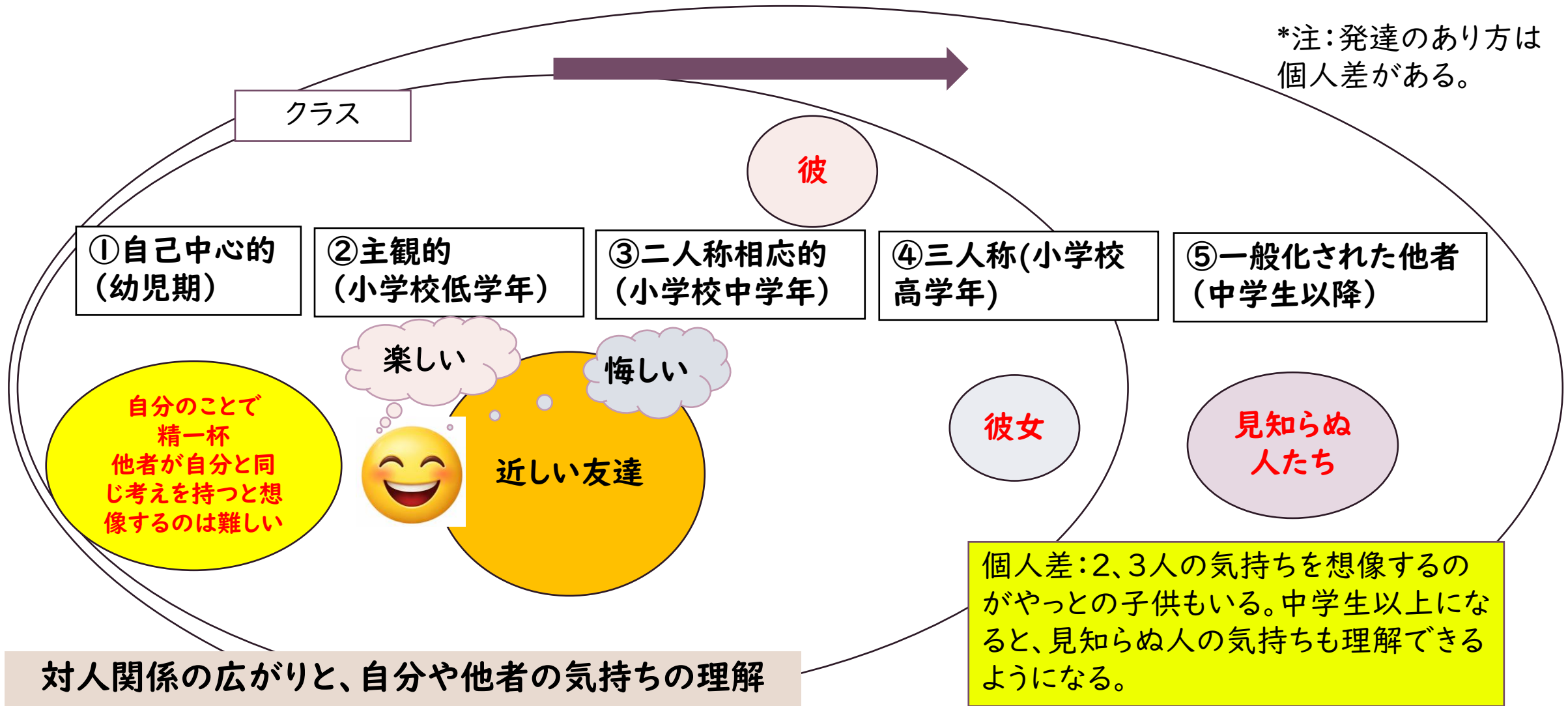
ここでは 例として

「思いやり」の発達

「考える力」の発達

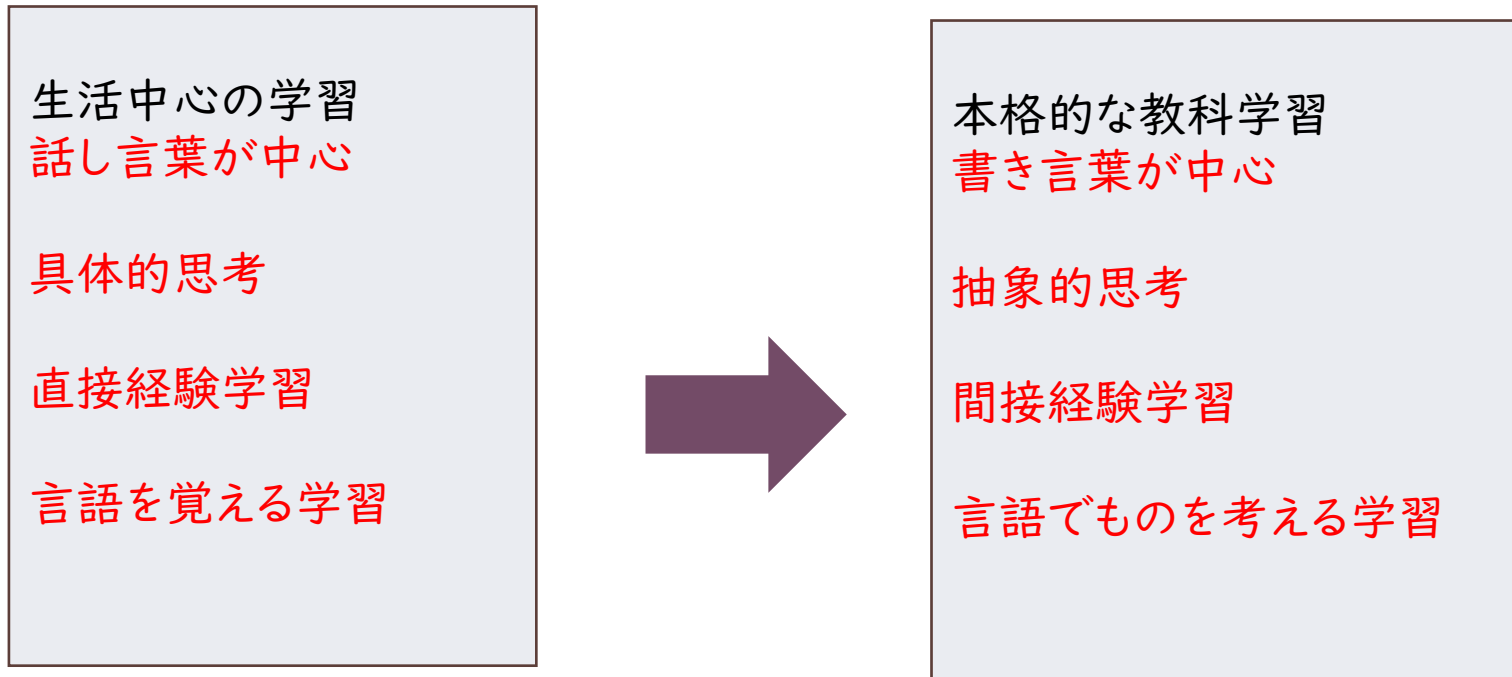
「思いやり」の発達を踏まえた指導

*注:発達のあり方は個人差がある。



Selmanの研究を紹介
渡辺(2011)

考える力などの認知的側面の発達を踏まえた指導



この発達は、教材の長さ、抽象度の高い話かどうか、会話で考えさせるか、書いたものにまとめさせるかに影響する。

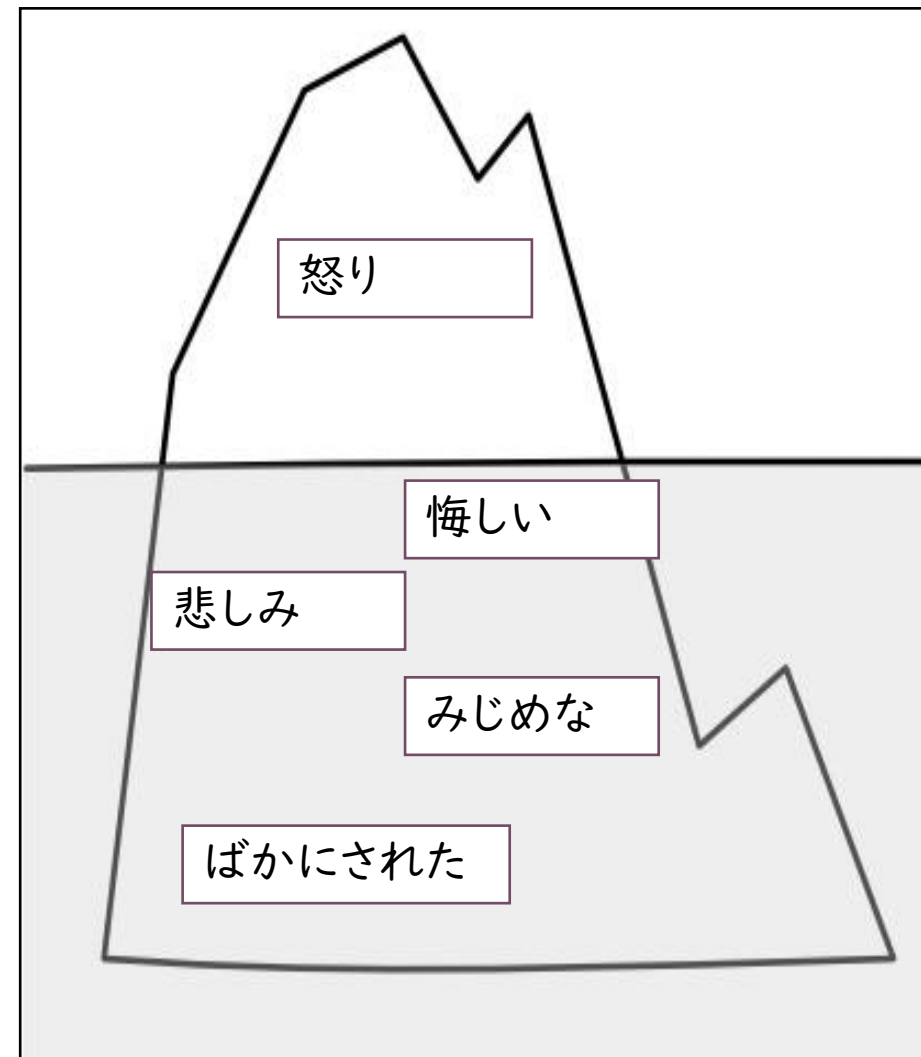
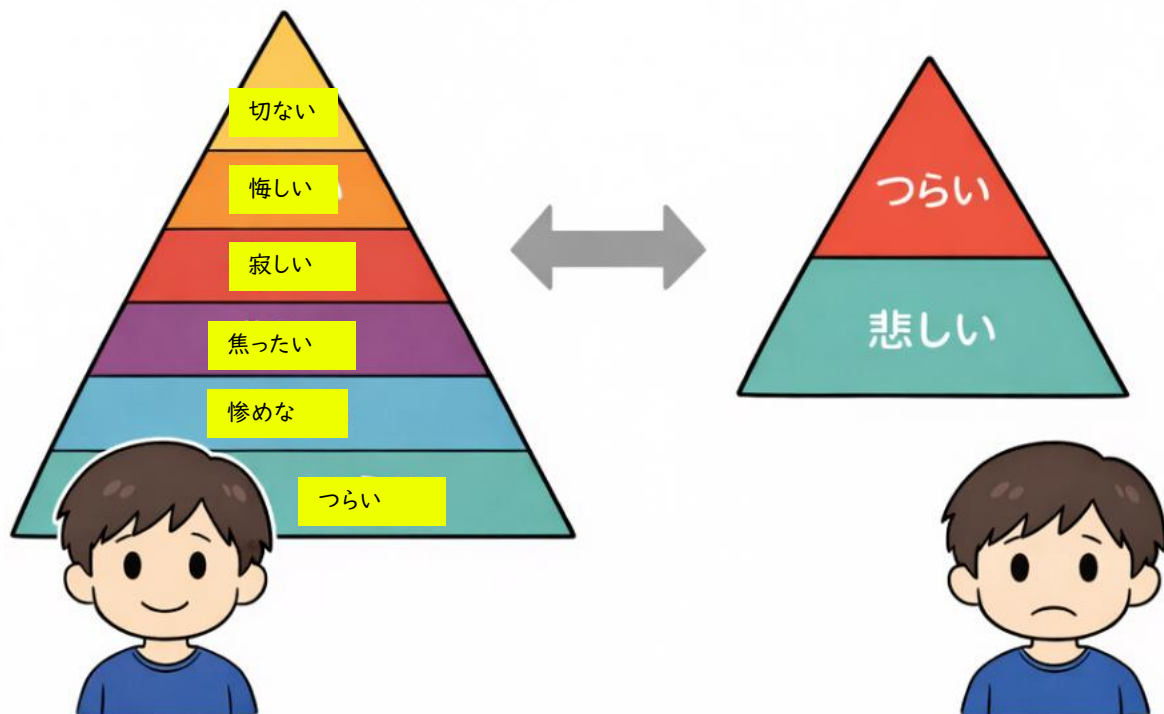
これらの発達段階を踏まえてSELの考え方を意識すると具体的な指導案が考えられ、発達に応じた効果的なものとなる。

*** 小学校中学年前後が境目（個人差あり）**

渡辺弥生(2011).子どもの「10歳の壁」とは何か? 光文社新書の中で、p.48の脇中(2009)を参考に加筆

気持ちや考えを可視化する教材： 感情語彙を豊かにするワークの紹介。入り混じった気持ちの理解

子ども達は、自己理解に必要な自分の感情の認識が未熟なため、自分や他人の気持ちを「わからない」「モヤモヤする」「やばい」と言った表現にとどまる傾向にある。自分の内面の感情を、うまく言語化したり、表情や声の調子、仕草で表すことが難しいゆえと指摘されている(渡辺、2026)。よりよく生きるためには、自分の感情を認識することが必要であり、そのためにはある程度の感情語彙を持つことや感情は入り混じっているなどの知識が必要である。



先に示した発達の理解や個人差を捉え、子どもの実態を適切に把握することにより、内面の発達を支える観点から、実態に応じた具体的な指導内容や支援の在り方を検討することが可能となる。

→ここまでの内容を踏まえたとき、例えば「**特別の教科 道徳**」においては、どのような指導方法が考えられるか。

価値の葛藤や複数の価値の関係から、「何が大切か」「**自己の生き方**」について考えを深める指導イメージ

小学校高学年 価値と価値の葛藤(【正直、誠実】×【親切、思いやり】)


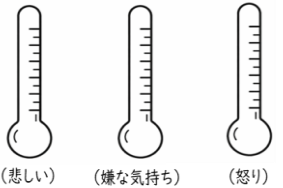
主題名:いじめをなくすためには 教材名:本当のことを言ってもいいの?

【ねらい】 1時間目:教材の登場人物の生き方と実生活を重ねながら、本当のことを言った時のお互いの気持ちを感じ、考えることを通して、道徳的心情を育てる。
2時間目:1時間目の学習をもとにしながら、相手のことを考え優しく接しようとする行動のよさについて考えることを通して道徳的実践意欲を育てる。

■教材の概要(アメリカの児童文学作家パトリア・C・マキサク(Patricia C. McKissack)による絵本『The Honest-to-Goodness Truth』(1999)の日本語版から作成)
さくらは正直が正しいと強く考える小学生。思ったことをそのまま言うことが大切だと思っています。ある日、友達のゆいが新しい髪型で登校してきます。クラスみんなは「かわいいね」と言います。でもさくらは…「前のほうが似合ってたと思う!」と強く言いました。ゆいは少し笑ったあと、黙ってしまいました。その後も、音読が苦手な子に「ゆっくりだね」、絵が苦手な子に「形がなんか変だよ」など、思ったことを次々とやってしまい、クラスみんなと少しずつ気まづくなります。…自分も正直に言われて落ち込むことになり…

1時間目

2時間目

導入(15分)	展開(20分)	終末(10分)	導入(5分)	展開(20分)	終末(10分)
<p>【指導上のポイント】 自我関与を喚起、経験を引き出す</p> <p>【発問】 先生はみんなと同じ小学生の時、「嘘はつかないで正直が大切だよ」って教わっていたのに、友達に思ったことを言ったら、仲が悪くなったことがあるんだけど、みんなはそんなことがあるかな?</p>	<p>①教材を読んで考える。 ②登場人物の言動を支える気持ちや内面を考え、話し合う。 ※ワークシートや端末に感じたこと、考えたことを整理できるようにしておく。 【発問】 さくらとゆいがお互いにどんな気持ちでいるか話し合ってみましょう。 ・自分の考えを整理 ・ペアで実際に言葉を掛け合う →役割を交代することによって、多面的・多角的に考えられるようにする。</p>  <p>③クラスの人々と共有する。 自分の考えや全体での考えの交流を通して判断をめぐる葛藤について考える。</p>	<p>【振り返り】 ★正直、誠実を大切にするのか、親切、思いやりを大切にすることについて、自分なりに感じたこと、考えたことをノートに書いてみましょう。</p> <p>判断を巡る葛藤について、自分の考えに向き合いながらまとめられるようにする。</p> <p>【更に深める】 (次の時間までに)葛藤が生じる異なる場面をそれぞれ考えさせる</p>	<p>1時間目に学習した登場人物の生き方、判断をめぐる葛藤についてワークシートや端末をもとに振り返る。</p>	<p>●気持ちや考えを可視化する</p> <p>【深める教材の例①】 もし、自分がよいと思ったことを、相手から変だとか、前がよかったと言われると、どんな気持ちになるかな? それぞれの気持ちがどれくらい強いかわかりづらいため塗りつぶしてみよう。</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;"> 気持ちの温度計など可視化できる工夫をする。 </div>  </div> <p>相手を思って「正直」に伝えることがよいと期待してたのに、自分に置き換えるとネガティブな感情になることについて考える。相手を傷つけないような道徳的行為の背景まで考えさせる。 →自我関与による深まり</p> <p>●教材とは異なる場面の「深める教材」をもとに考える。</p> <p>【深める教材の例②】 ・友達が「私の歌下手かな?」と言ってきた時、どうしますか? ・相手が同級生ではなく、年下の子ではどうですか? ・他の葛藤が起きそうな場面ではどうですか? 等々</p> <p>正直に伝えることと、思いやりを持って伝えることの関係について、ワークシートや端末を活用して学級内で共有し、体験的に気づかせる。多面的・多角的に道徳的行為を考えさせながら、文脈への主体的な関与を促し、価値に気づき、その理解を深めていく。</p>	<p>【振り返り】 ★2時間を通して、登場人物の色々な気持ちや、伝え方を考えたりしてきたことを振り返る。</p> <p>どのようなことが大切だと思ったか、行動の背景にある感情や考えなどについてまとめてみよう。</p> <p>その上で、どのような生き方、価値が重要なのかに気づかせる。</p> <p>1時間目、2時間目の学習をもとに自己の生き方を考える</p>
<p>*登場人物の人数は、低学年は2名くらい、高学年は第三者を増やしても良い。 *価値については、低学年では抽象的な概念の理解が難しい子どももいるので、一つの価値を深く考えさせても良い。やさしいと思って言った言葉が、予想外に友達を傷つけたなど、思いやりについて2コマ考えさせることもできる。</p>					

まとめ

- いじめや暴力行為の未然防止のために、道徳は一層の役割を果たす必要がある。
- 感情の理解や調整は、問題行動の未然防止に資するものとして国際的にも注目されている。
- 道徳科の指導の充実にあたり、感情の理解や調整の要素をうまく取り入れることで、「道徳的心情」「道徳的実践意欲」とも関連し、よりよく道徳科の目標に迫ることができる可能性がある。
- とりわけ、複数時間の取扱いや体験的な活動等の工夫と組み合わせることで、「道徳的実践」へのつながりを意識しながら、「思いやり」等の道徳的価値によりよく迫ることができるのではないか。
- その際、「思いやり」「考える力」の発達段階を踏まえて授業や教材が設計されることが重要であり、こうした視点も踏まえた「深める教材」の開発にも期待できるのではないか。

「考え、議論する道徳」の実装に向けた
学びの在り方について
道徳的行為に関する体験的な学習
「役割演技」の学びと可能性

令和8年4月28日(火)13:00~15:00

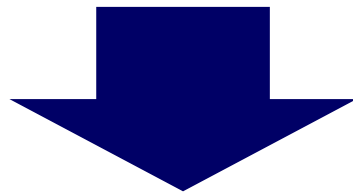
中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会

道徳ワーキンググループ(第4回)

渡邊真魚

はじめに

- 多様な学びの在り方を知る
- 多様な考え方に至る過程を体感させたい



様々な工夫 / 実践が想定される

道徳科における質の高い多様な指導方法について(イメージ)

平成28年7月22日 道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議(抜粋)

	問題解決的な学習	道徳的行為に関する 体験的な学習
ねらい	問題解決的な学習を通して、道徳的な問題を多面的・多角的に考え、児童生徒一人一人が生きる上で出会う様々な問題や課題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養う	役割演技などの疑似体験的な表現活動を通して、道徳的価値の理解を深め、様々な課題や問題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養う
効果	<ul style="list-style-type: none">● 出会った道徳的な問題に対処しようとする資質・能力を養う指導方法として有効。他者と対話や協働しつつ問題解決する中で、新たな価値や考えを発見・創造する可能性● 問題の解決を求める探究の先に新たな「問い」が生まれるという問題解決的なプロセスに価値	<ul style="list-style-type: none">● 心情と行為とをすり合わせるにより、無意識の行為を意識化することができ、様々な課題や問題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養う指導方法として有効● 体験的な学習を通して、取り得る行為を考え選択させることで内面も強化していくことが可

※本報告では「読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習」も示されているが、現行指導要領においては、道徳科の特質を生かした指導方法の例として、上記二つが記載されている。

役割演技

学習指導要領(平成29年告示)解説『特別の教科 道徳編』

中学校 第4章 指導計画の作成と内容の取扱い

第3節 指導の配慮事項

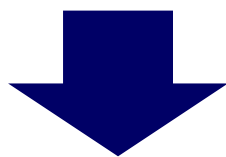
4 問題解決的な学習など多様な方法を取り入れた指導

(2)道徳的行為に関する体験的な学習等を取り入れる工夫 (P97～98)

道徳的諸価値を理解するためには、例えば、具体的な道徳的行為の場面を想起させ追体験させて、実際に行うことの難しさとその理由を考えさせ、弱さを克服することの大切さを自覚させることなどが考えられる。また、道徳的行為の難しさについて語り合ったり、それとは逆に、生徒たちが見聞きしたすばらしい道徳的行為を出し合ったりして、考えを深めることも考えられる。さらに、読み物教材等を活用した場合には、その教材に登場する人物等の言動を即興的に演技して考える役割演技など疑似体験的な表現活動を取り入れた学習も考えられる。

これらの方法を活用する場合は、単に体験的行為や活動そのものを目的として行うのではなく、授業の中に適切に取り入れ、体験的行為や活動を通じて学んだ内容から道徳的価値の意義などについて考えを深めるようにすることが重要である。道徳科の授業に体験的な学習を取り入れる際には、単に活動を行って終わるのではなく、生徒が体験を通じて学んだことを振り返り、その意義について考えることが大切である。体験的な学習を通して道徳的価値の理解を深め、様々な課題や問題を主体的に解決するための資質・能力の育成に資するように十分に留意する必要がある。

心理学的な知見からの役割演技



モレノ (Moreno, J, L.) が考案した心理劇の技法のひとつ (『心理学事典』より)

具体的に演じることで、

思考・感情・行動に働きかけることが可能

道徳科の授業での効果的な実践により、

自我関与、多面化・多角化を通じた

深い理解、深い考え(深い学び)に繋がることが期待

- 判断に迷い葛藤が生じる場面 (例)規則の尊重、公德心 等
- 相手の立場になって考える場面 (例)相互理解、寛容 等
- どう振る舞ったらよいのか迷う場面 (例)思いやり、感謝 / 礼儀 等

※役割演技を道徳科で活用した授業実践は多数ある。

一方、役割演技の実践には課題もある

《子どもの課題》

- いじめの場面等を演じることで、トラウマ・嫌な思いを呼び起こしてしまふことや、演じた役割が解除されず、現実世界に引き継いでしまふ可能性がある

《学級の実態》

- 学びの場面で安心して自分を表現できない環境(集団)であると、役割演技をすることそのものが難しい

《授業者の立場》

- 指導の目的や意図が明確でないまま実践してしまうと、演技の巧拙で終わってしまい深い学びに至らない

役割演技の流れの例

(「新版 学校教育事典」(2003)より)

(1) 役割演技をするための心身の状態を整える…準備

演者を募る(主体的に参加) / 観客としての学びを保障する(フロアからの気づき) / ペア活動を入れる

(2) 状況設定や役割設定をして即興で役割演技を行う…演技

(3) 現実の自分に戻ってそれぞれのドラマ体験を語り合っ共有し、ドラマ体験と現実経験の統合を図る…振り返り

役割演技は即興(状況設定のみ)で行う / 役割演技の後(演じた後)は演者・観客ともに全員で話し合う / 役割演技の後(学びのあと)は拍手を促して現実に戻す

※学級の実態に応じて実際の流れは多様である。

役割演技の留意点

(渡邊(2023)より)

(1) 演技の巧拙ではない

(2) 「気づいたこと、感じたこと、考えさせられたこと」を洗い出す

(3) 演じた後に、役割を入れ替えてみる

(4) 演者を変えて、演じた場面を比較してみる

(5) 教材の場面を再現する 「ちょっと再現してみましよう」

(6) 教材の場面を解決する 「この場面を解決してみましよう」

(7) はじめと終わりに合図をする

1コマで実施し、
学びを深める際の
時間的な課題



※再現の場合は振り返りも入れて10分程度、解決の場合は15分程度など、場面等によって取り入れ方は多様である。
また、長いプレイが良いとは限らない。

経験のある出来事を考える実践例

内容項目:「遵法精神、公德心」 教材:「空虚な問答」(日本文教出版社)

ねらい:「よりよい社会の実現は、周囲に配慮した行動により成り立つことを理解し、よりよいものに変えていこうとする実践意欲と態度を育てる。」

電車の中で座席を占有する場面で役割演技を導入することで、公私を考えた他者に対する配慮が深まる点に有効



■ 役割演技で場面を再現する

男性(立っている生徒)が中学生(座っている生徒)に声をかける場面を演じる

■ 教材場面の問題点を洗い出す

観ている生徒も自分の視点で考えを発言する

■ 役割演技で場面を解決する

「今日は、剣道の大会で疲れて(座席を占領していた等)頭がまわりませんでした。(目をみながら)すみませんでした。」という場面ができる

■ 演じた生徒に感想を聞きながら自分事として考えを深める

座っている中学生を演じた生徒の感想から、「いたたまれなかった」と発言が出る
※自分と重ねて演じる生徒が出る

経験のない出来事を考える実践例

内容項目:「よりよく生きる喜び」 教材:「よみがえれ!安波祭」(『ふくしま道徳教育資料Ⅰ 生き抜く・いのち』福島県教育委員会) ねらい:「人間には弱さや醜さを克服する強さや気高さがあることを信じて、人間としていきることに喜びを見いだそうとする態度を育てる。」

小学校時代の友人と再会した場面で役割演技を導入することで、登場人物のすれ違う気持ちに共感する点に有効



■ 補助資料により登場人物の多様な背景を知る

同じ小学校から避難先で別々の中学校に通うふたりを知る

※多様な背景をもつ子供への配慮は事前に確認する必要がある。本時は震災経験者はなし。

■ 役割演技で間接的に経験する

小学校時代の友人に再会する場面を演じる

※楽しい、おもしろい(1年)、最初はうれしい...でも何を話せばよいか少し気まぎらくなってしまった(2年)等、発達段階によって学年により異なる反応があるため、児童生徒や学級の実態に応じた設定が重要である。

■ 教材の範読を聞きながら教材場面の問題点を考える

導入での役割演技を踏まえ経験のない出来事を自分と重ねながら考える

■ 道徳的価値についての考えを深める

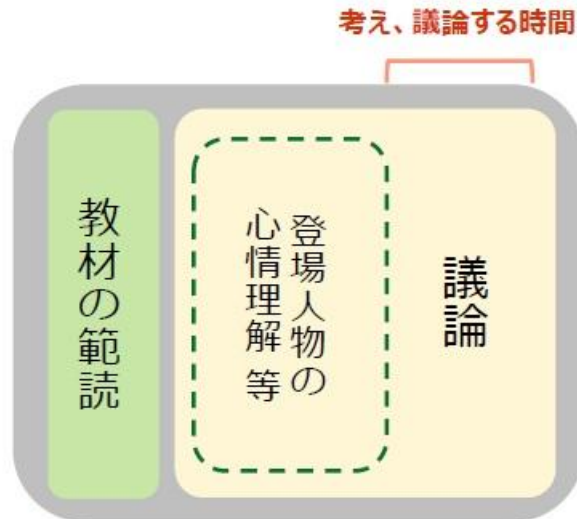
見出した道徳的諸価値について、全員で考え、議論しながら道徳的価値についての考えをより深める

「考え、議論する道徳」の実装に向けた具体的な方策について（イメージ）

- 1授業について1つの読み物教材を扱うことが多い道徳科の授業については、下記のような課題が指摘されている。
 - ✓ 心情理解や登場人物の整理で時間がかかってしまう
 - ✓ 教材の解釈を中心とした展開になってしまい多面的・多角的に自己の生き方についての考えを深めるところまで辿り着かない
 - ✓ 1コマで読み物と向き合う時間と考え議論を深める時間の双方の時間を十分に確保することが難しい
 - ✓ 教科化に伴い重視している体験的・問題解決的な学習を取り入れ、自分自身との関わりで深める時間を確保することが難しい
- 現行指導要領でも「一つの内容項目を複数の時間で扱う指導を取り入れる」とされているところであり、発達の段階を踏まえつつ、1教材を複数コマで取り扱うことで、「じっくりと深く学ぶ」道徳科の学びを一層推進していくことについて、検討してはどうか。

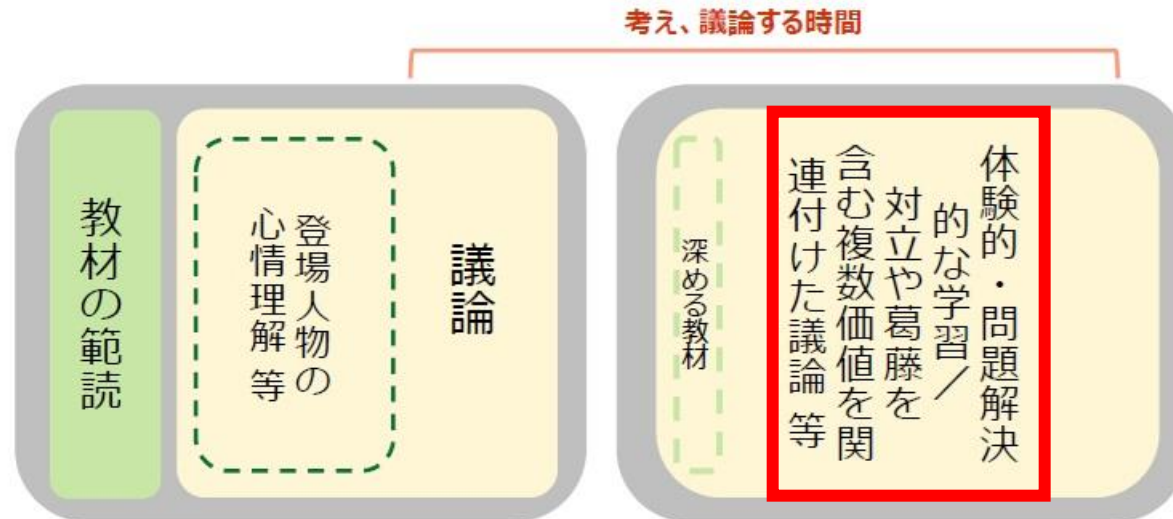
（1教材を1コマで取り扱う場合）

- ・ 時間が足りず深まらない
- ・ 内容項目の関連や対立の可能性が十分に扱えず、多面的・多角的になりづらい
- ・ 体験的・問題解決的な学習にも限界



（1教材を複数コマで取り扱う場合）

- ・ 複数時間を前提とした授業設計の導入により、議論を深めたり、体験的・問題解決的な学習を充実したりすることで、考えの深まりにつなげる
- ・ 同一の題材を考えるにあたって複数の道徳的価値を関連付けることにより、多面的・多角的に考えることを促す



- ※ 上記は指導の「型」を示すものではなく、道徳科における具体的な学習の過程は多様であることに留意
- ※ 複数コマについては、連続した2コマを想定しているのではなく、翌週の取扱いを念頭
- ※ 2コマ目について、読み物教材ではない、「深める教材」を用いることも想定

(例)複数内容項目

遵法精神、公德心 / 思いやり、感謝

1時間目

遵法精神、公德心

- 教材を読み、登場人物の生き方を考える
- 教材とつながり、自分との関わりで考える

2時間目

思いやり、感謝

- 前時の学習をもとに、新たな教材の場面について考える
- 社会とつながり、自分との関わりで考える

導入
教材の範読

展開
役割演技1
教材を
再現する
全体交流

展開
役割演技2
教材を
解決する
全体交流

道徳的価値について実感する

終末
本時の
振り返り

深める
教材
視点を
ずらした資料
等

考え、議論する
全体交流
例えば・・・
善悪の判断
きまりを守る
思いやり、感謝

終末
本時の
振り返り

自分との関わりで道徳的価値の理解を深めたり、
多面的・多角的な見方へと発展させたりする

(例)複数内容項目

公正、公平、社会正義 / 相互理解、寛容

1時間目

公正、公平、社会正義

- 教材を読み、登場人物の生き方を考える
- 教材とつながり、自分との関わりで考える

2時間目

相互理解、寛容

- 前時の学習をもとに、新たな教材の場面について考える
- 社会とつながり、自分との関わりで考える

導入
教材の範読

考え、議論する
全体交流
例えば・・・
公平であることの難しさ
好き、嫌いの感情から
他者に対する偏見に気づく

終末
本時の
振り返り

深める
教材
視点を
ずらした
資料
等

展開
役割演技
間接的に
体験する
道徳的価値に
ついて実感する

考え、
議論する
全体交流
人間理解
他者理解
あらためて
価値理解

終末
本時の
振り返り

自分との関わりで道徳的価値の理解を深めたり、
多面的・多角的な見方へと発展させたりする

まとめ

- 役割演技は、道徳科の特質を生かした指導方法の工夫としての、体験的な学習の一つの例である。
- 役割演技では疑似体験的な表現活動を通じて、思考のみならず感情や行動にも働きかけられる。
- このため、効果的に実践することで、実感を伴って道徳的価値と向き合い、深い学びに繋がることが期待できる。

留意すべきポイント

- 演技の巧拙ではない
 - ➡道徳的な価値を見出す(演者/観客としての振り返りを通してさらに深める)
- 多様な背景を持つ子供には、配慮が必要である
 - ➡役割を担う 心に傷を負うことは絶対にしない
- 子供が主体的に道徳性について考えるきっかけ
 - ➡50分(45分)に深い学びをもたらす仕掛け / メリハリが必要
 - ➡35時間の学びの在り方にも変化のあるデザインが必要ではないか

引用・参考文献

- 文部科学省（2018）『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編』
- 中島義明他編（1999）『心理学事典』有斐閣
- 今野喜清他編（2003）『新版 学校教育辞典』教育出版
- 渡邊真魚（2018）「体験的な活動を取り入れた道徳科の授業構想—役割演技に生かす効果的な活用について—」日本道徳教育学会『道徳と教育』第336号
- 走井洋一編著（2020）『道徳教育の理論と方法』ミネルヴァ書房
- 下司 晶編著（2023）『道徳教育』学文社
- 渡邊真魚（2026）「中学校道徳科における『道徳的行為に関する体験的な学習』プログラムに見る教科内容の特質」『日本教科内容学会誌』第12巻第1号
- 「よみがえれ！安波祭」『ふくしま道徳教育資料Ⅰ 生き抜く・いのち』福島県教育委員会
<https://www.pref.fukushima.lg.jp/img/kyouiku/attachment/902294.pdf>（2026年4月24日最終閲覧）
- 林泰成（2000）『ケアする心を育む道徳教育 伝統的な倫理学を超えて』北大路書房
- 永田繁雄（2011）「『場面発問』だけの授業から脱却する」『道徳教育』4月号, 明治図書
- 永田繁雄（2014）「道徳授業の発問を変える『テーマ発問』とは」『道徳教育』8月号, 明治図書
- 西野真由美（2020）『新訂 道徳教育の理念と実践』NHK出版

第13期中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会
道徳ワーキンググループ 委員名簿

(敬称略・五十音順)

- 岡崎 秋世 所沢市立東所沢小学校校長
- 佐藤 和紀 信州大学学術研究院教育学系准教授
- 鈴木 由美子 広島大学名誉教授
- 中島 栄治 熊本県合志市教育委員会教育長
- 古屋 真宏 国分寺市教育委員会教育長
- 毛内 嘉威 秋田公立美術大学理事・副学長・美術学部教授
- 山崎 真理 相模原市立小山中学校前校長
- ◎ 頼住 光子 駒澤大学仏教学部教授
- 渡邊 範道 東京都立上野高等学校統括校長
- 渡邊 真魚 日本大学工学部教授
- 渡辺 弥生 法政大学文学部教授

◎主査、○主査代理